

コンピューターミシン
取扱説明書
CPV02シリーズ



brother

- **1** ぬう前の準備
- **2** ぬい方の基本
- **3** いろいろなぬい方
- **4** 付録

- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に以降の「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、未永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

警告

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

注意

- この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



特定しない危険通告



針の下に指を入れないでください



感電の危険があります



分解してはいけません



火災の危険があります



水に濡らしてはいけません



特定しない義務行為



電源プラグを抜いてください

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 使用中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき



注意



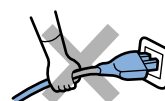
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



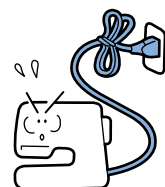
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



！ 注意



- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。



- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- コードを巻き取るときは、電源プラグとコードを持って巻き取ってください。電源プラグが当たって、けがの原因になります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。(火の消えていないたばこ、ろうそくなど) 火災の原因になります。



- 野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



- 以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。
 - ・ 温度が著しく高くなる場所
 - ・ 温度が著しく低くなる場所
 - ・ 急激に温度が変化する場所
 - ・ 湿気、湯気の多い場所
 - ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
 - ・ 屋外や直射日光の当たる場所
 - ・ ほこり、油煙の多い場所



- スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご利用ください。



注意



- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコンローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



- ミシン本体の重さは約 6.5kg あります。ミシン本体を持ち運ぶ際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落としたりして、けがの原因となります。



- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。



- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・けがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。



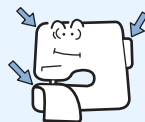
- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。



注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリー、てんびんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。



- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。



- 針と押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。



- 針の下などに指を入れないでください。けがをするおそれがあります。



- 上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



！ 注意



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。



- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けが・故障の原因となります。(フットコントローラーは別売です。)



お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

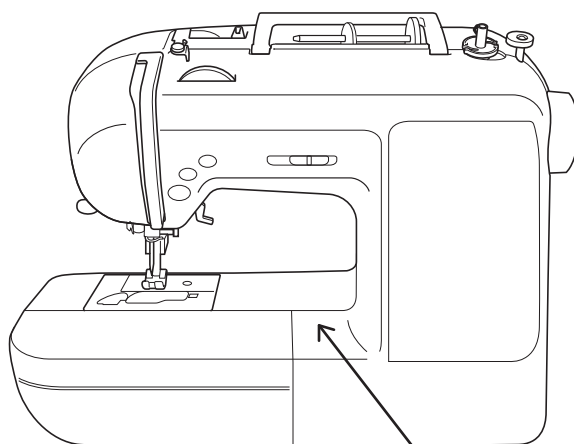
警告ラベルについて

ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。

警告ラベルの内容を十分理解し、記載事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



ラベルの場所

はじめに	1
安全にお使いいただくために	1
警告ラベルについて	6
付属品を確認してください	9
付属品収納スペース	9
付属品	9
別売品	11
各部の名前とはたらき	12
主要部	12
針・押え部分	13
操作スイッチ	13
1. ぬう前の準備	14
電源を入れましょう	14
電源に関する注意	14
電源を入れる	15
フットコントローラー（別売）を使う	15
上糸と下糸の準備	16
下糸を巻く	16
下糸をセットする	19
上糸を通す	21
下糸を引き出してからぬうとき	25
針を交換するには	26
針に関する注意	26
布地と糸の種類による針の使い分け	26
正しい針の見分け方	27
針を交換する	27
押えを交換するには	29
押えに関する注意	29
押えを交換する	29
押えホルダーを外す	30
針停止位置を変更するには	31
2. ぬい方の基本	32
ぬってみましょう	32
ソーイングの手順	32
模様を選ぶ	33
ミシンをスタートさせる	33
糸調子を調節する	35
上手にぬうコツ	36
試しぬいをする	36
ぬう方向を変える	36
カーブをぬう	36
厚い布地をぬう	36
面ファスナー（マジックテープ®）をぬう	37
薄い布地をぬう	37
特に厚い布地をぬう	38
伸びる布地をぬう	38
筒ものをぬう	38

3. いろいろなぬい方	39
布端を始末する	39
ジグザグ押え <J> を使ったたち目かがり	40
たち目かがり押え <G> を使ったたち目かがり	40
直線ぬいをする	41
すそ上げをする	42
ボタン穴かがりをする	45
ファスナーをつける	48
つき合わせ	48
片返し	50
伸びる布地やゴムテープをぬう	52
伸縮ぬい	52
ゴムテープつけ	52
アップリケ／パッチワーク／クレイジーキルトをぬう	54
アップリケ	54
パッチワーク（クレイジーキルト）	55
丈夫にしたいところをぬう	56
3重ぬい	56
その他のぬい方	57
フリーモーションキルト	57
サイドカッター押え（別売）を使う	59
4. 付録	61
模様設定一覧	61
お手入れ	62
注油に関して	62
ミシンを保管するときのご注意	62
本体表面の掃除	62
かまの掃除	62
困ったとき	64
よくあるご相談	64
上糸がつる	64
布裏で糸がからまる	65
糸調子が合わない	67
布がミシンに入り込んでとれなくなった	68
ポビン受け座の下で糸がからまってしまったら	71
こんなときには	72
電子音について	76
仕様表	77
索引	78

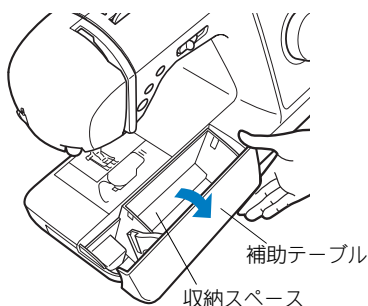
付属品を確認してください

箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品収納スペース

付属品は、補助テーブルの内側の収納スペースに収納されています。

- 1 補助テーブルのふたを手前に引いて、開きます。



- ▶ 収納スペースには、付属品バッグが入っています。



お願い

- 付属品は、付属品バッグに入れてから、補助テーブルに収納してください。付属品バッグに入れずに収納すると、付属品が収納スペースから落ちて紛失したり、破損したりすることがあります。
- 補助テーブル取り外しについては、「筒ものをぬう」(→ P.38) を参照してください。

付属品

■ ボビン

下糸を巻いて使用します。本機純正のものが4個付属されています。そのうちの1個はかまにセットされています。



■ ネジ回し

ミシン針を交換するときや、針板カバーを開閉するときに使用します。



■ ドライバー

押えを交換するときに使用します。



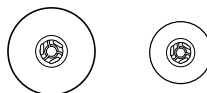
■ ミシンブラシ

かまなどの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。



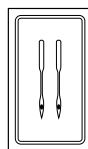
■ 糸こま押え

上糸をセットするときに使用します。糸こまの大きさによって大／中を使い分けます。購入時、糸こま押え(中)はミシンの糸たて棒にセットされています。



■ ミシン針

3種類(計5本)の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。詳細は「布地と糸の種類による針の使い分け」(→ P.26) で説明します。



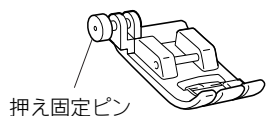
黄 #11 (2本)
赤 #14 (2本)
緑 #16 (1本)

■ 押え (5 種)

ぬい方に合った押えが用意されています。押えには A・G・I・J・L の記号が記されています。詳細は「押えを交換する」(→ P.29) で説明します。

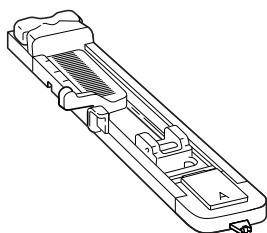
□ ジグザグ押え <J>

押え固定ピンが付いています。

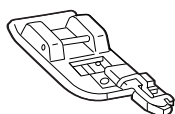


- ・ 押え固定ピンは、厚い布地のぬい始めなど、段差があって布地を送ることができないときに使用します。(→ P.37)
- ・ 購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。

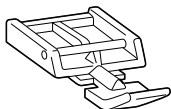
□ ボタン穴かがり押え <A>



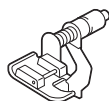
□ たち目かがり押え <G>



□ 片押え <I>

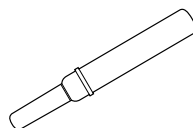


□ まつりぬい押え <L>



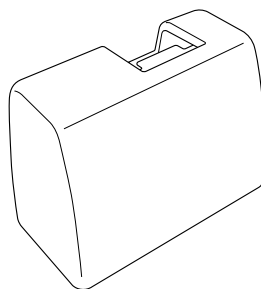
■ リッパー

ぬい目をほどこいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



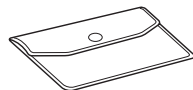
■ ハードケース

ミシンを使用しないときは、ケースをかぶせて収納してください。



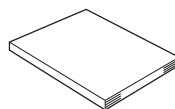
■ 付属品バッグ

ネジ回しや押えなどの小物を収納するバッグです。



■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



■ かんたん操作ガイド

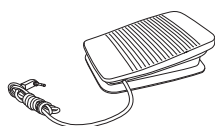
下糸・上糸のセットが確認できます。



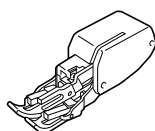
別売品

別売品として、以下の製品を用意しています。

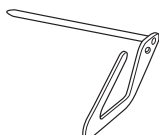
- **フットコントローラー**
(モデル名: FC322-91) 型式 MODEL T
ミシンを足で操作するときに使用します。



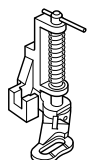
- **ウォーキングフット (モデル名: F033)**
ビニールや皮革など、ぬいにくい布地やぬいずれしやすい布地をぬうときに使用します。



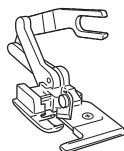
- **キルター (モデル名: F016N)**
ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。



- **キルト押え (モデル名: F005N)**
フリーモーションキルトをするときに使用します。



- **サイドカッター押え (モデル名: F054)**
布端を切りながら、たち目がかりなどをするときに使用します。

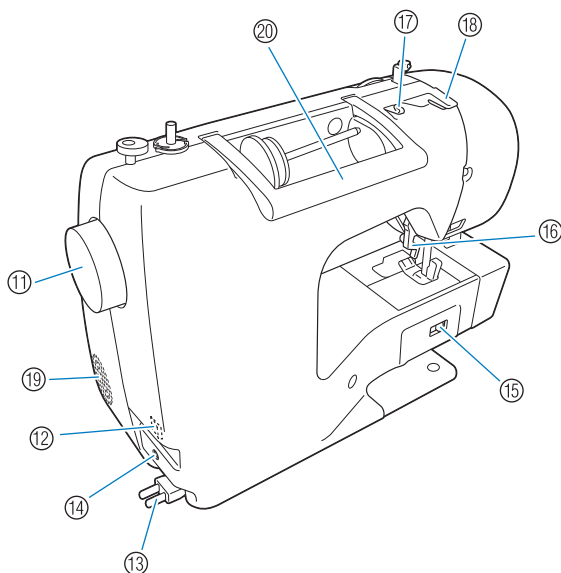
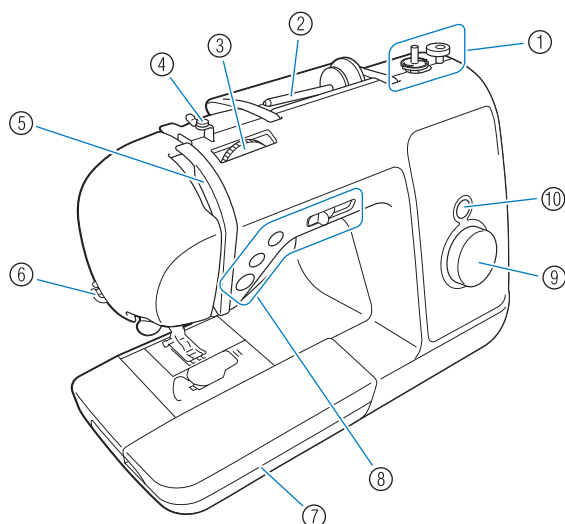


お知らせ

- 別売品・部品については、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にお問い合わせください。

各部の名前とはたらき

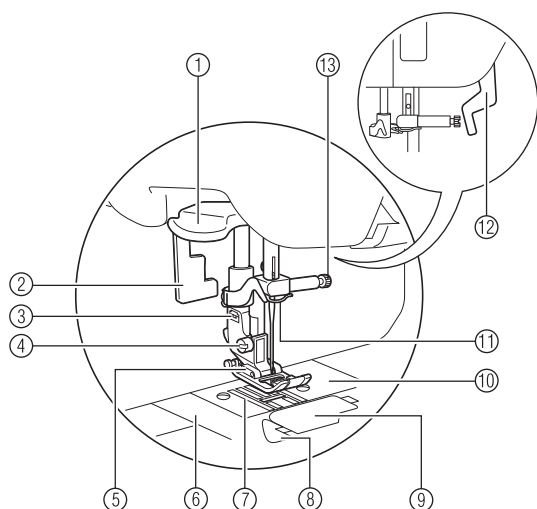
主要部



- ① 下糸巻き装置 (→ P. 16)
下糸をボビンに巻くときに使用します。
- ② 糸たて棒 (→ P. 16、21)
糸こまを差し込みます。
- ③ 糸調子ダイヤル (→ P. 35)
上糸調子を調節します。
- ④ 下糸巻き案内 (→ P. 16)
下糸をボビンに巻くときに糸をかけます。
- ⑤ てんびん (→ P. 22)
- ⑥ 糸切り (→ P. 34)
ここに引っかけて糸を切ります。
- ⑦ 補助テーブル、付属品収納スペース (→ P. 9、38)
この中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときは、ここを外します。
- ⑧ 操作スイッチ (→ P. 13)
ミシンをスタートさせたり、針を上げ下げするときに使用します。
- ⑨ 模様選択ダイヤル (→ P. 33)
ぬいたい模様を選ぶときに使用します。
- ⑩ 模様表示窓 (→ P. 33)
選んだ模様と押え記号が表示されます。

- ⑪ ブーリー
ぬい目を 1 針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ⑫ 電源スイッチ (→ P. 15)
電源を入れるスイッチです。
- ⑬ 電源コード (→ P. 15)
家庭用電源コンセント (AC100V) に接続します。
- ⑭ フットコントローラージャック (→ P. 15)
ここにフットコントローラーのプラグを差し込みます。
- ⑮ ドロップレバー (→ P. 57)
送り歯を下げるときに使用します。
- ⑯ 押えレバー (→ P. 21)
押えを上げ下げします。
- ⑰ 上糸案内 (→ P. 17)
下糸をボビンに巻くときや、上糸を通すときに糸をかけます。
- ⑱ 糸案内カバー (→ P. 17)
下糸をボビンに巻くときや、上糸を通すときに糸をかけます。
- ⑲ 換気口
モーターの換気用の穴です。
- ⑳ ハンドル
ミシンを持ち運ぶときに使用します。

針・押え部分

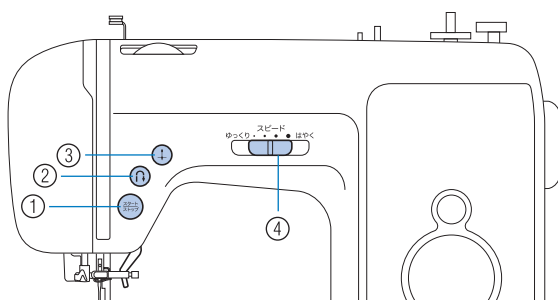


- ① 糸通しレバー
針に糸を通すときに使用します。
- ② ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

- ③ 押えホルダー
押えを取り付けます。
- ④ 押えホルダーのネジ
押えホルダーを固定します。
- ⑤ 押え
布地を押さえます。ぬい方に合った押えをセットします。
- ⑥ 針板カバー
かまの掃除をするときに取り外します。
- ⑦ 送り歯
布地を送ります。
- ⑧ 下糸クイック
下糸を引き上げずにぬい始められます。
- ⑨ 針板ふた／かま
ここを開けて、かまにボビンをセットします。
- ⑩ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。
- ⑪ 針棒糸かけ
上糸をかけます。
- ⑫ 押えレバー
押えを上げ下げします。
- ⑬ 針のとめネジ
針を固定します。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作は、操作スイッチで簡単に行えます。



- ① スタート／ストップスイッチ (⏻)
ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」(→ P.33) で説明します。
- ② 返しぬいスイッチ (↺)
スイッチを押している間、返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合はスイッチを押している間、逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で3～5針ぬってから止まります。詳細は「返しぬい / 止めぬいをする」(→ P.34) で説明します。
- ③ 針上下スイッチ (↑)
針の位置を上または下に切り替えます。2回押すと、1針ぬえます。
- ④ スピードコントロールレバー
左右に動かして速度を調節します。左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

1 ぬう前の準備

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

！ 警告



- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
- 緩んだコンセントは使用しないでください。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 使用中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき

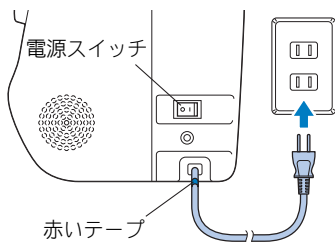
！ 注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

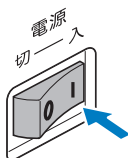
- 1 本体右側面から電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



お願い

- 電源コードの端には、赤いテープが巻いてあります。この印が見えたら、電源コードをそれ以上引き出さないでください。

- 2 電源スイッチの“|”側を押して「入」にします。



- ▶ 電源が入り、手もとライトが点灯します。



お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

- 3 電源を切るときは、電源スイッチの“○”側を押して「切」にします。

- ▶ 電源が切れ、ライトが消えます。



お願い

- 使用中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

- 4 電源プラグをコンセントから抜いて、電源コードを少し引っ張ります。

- ▶ 電源コードが巻き取られます。

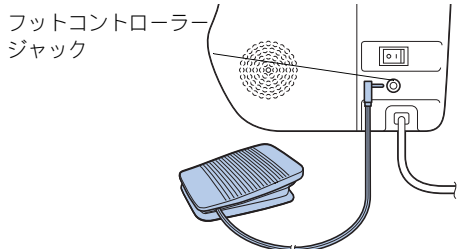
注意



- コードを巻き取るときは、電源コードとプラグを持って巻き取ってください。電源プラグが当たって、けがの原因になります。

フットコントローラー（別売）を使う

本体右側面のフットコントローラーjackに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



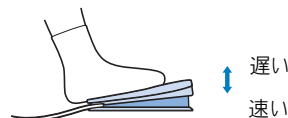
注意



- フットコントローラーを接続するときは、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。
- このミシンには以下のモデルのフットコントローラーが使用できます。その他のモデルまたは他社のフットコントローラーは使用しないでください。
MODEL T、MODEL S

■ フットコントローラーの使い方

フットコントローラーを浅く踏んでいるときは、ミシンはゆっくりと動きます。深く踏み込むほど、ミシンのぬい速度は速くなります。踏み込みをやめるとミシンは止まります。



注意



- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けが・故障の原因となります。
- 長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをjackから抜いてください。火災・感電の原因となります。



お知らせ

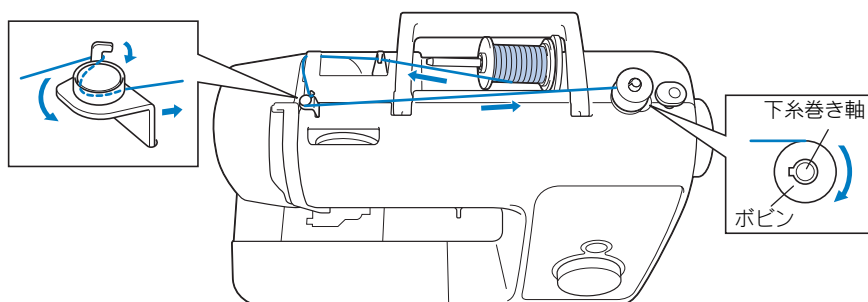
- フットコントローラーjackにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。
- スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーを踏み込んだときの最高速度になります。

上糸と下糸の準備

下糸用の糸を巻いたボビンをセットしたあと、上糸用の糸を通します。

下糸を巻く

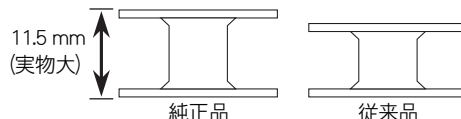
下糸用の糸をボビンに巻きます。



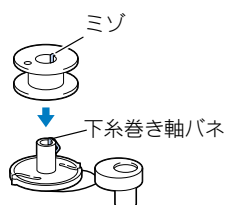
！ 注意



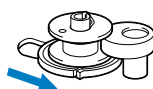
- 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売の純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、けが・故障の原因となります。



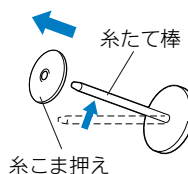
- ① ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。



- ② 下糸巻き軸にセットしたボビンをカチッと音がするまで右側に押します。

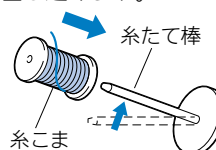


- ③ 糸たて棒を起し、糸こま押えを抜きます。



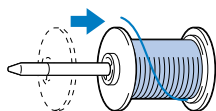
- ④ 下糸用の糸こまを糸たて棒にいっぱいまで差し込みます。

糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差し込みます。



5 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

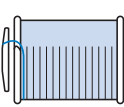
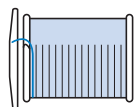
糸こま押えは少し丸みをおびている平らな面を左側にして、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



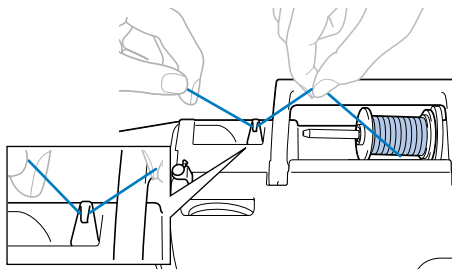
注意



- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや故障の原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。

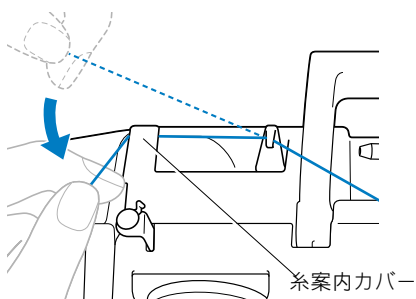


6 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。

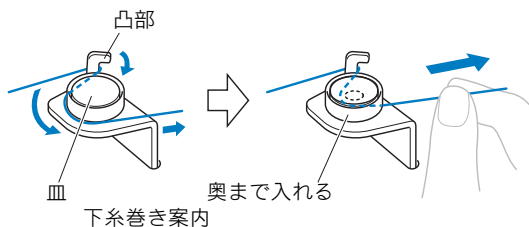


7 糸を糸案内カバーの奥から手前にかけます。

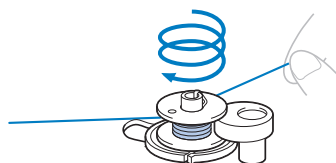
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



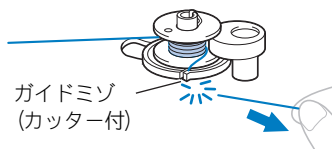
8 糸を引いて下糸巻き案内の凸部に糸をかけ、皿の間に左回りに糸をかけ、しっかり奥まで入れます。



9 下糸巻き案内にかけた糸を左手で押さえ、引き出した糸を右手でボビンに時計回りに5～6回巻き付けます。



10 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引いて糸を切ります。



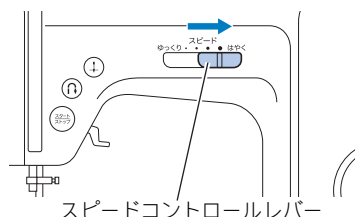
▶ 糸が適切な長さで切れます。

注意



- 必ずこの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと糸がうまく巻けません。また、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

11 スピードコントロールレバーを右(はやく)にスライドさせます。

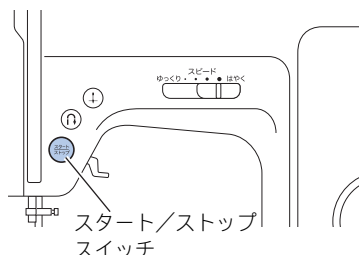


12 電源を入れます。

13 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーを踏みます。

- ▶ ボビンの回転し、下糸巻きがスタートします。



14 ボビンの回転が止まるか、回転のスピードがゆっくりになったら、もう一度 (スタート/ストップスイッチ) を押して下糸巻きを止めます。

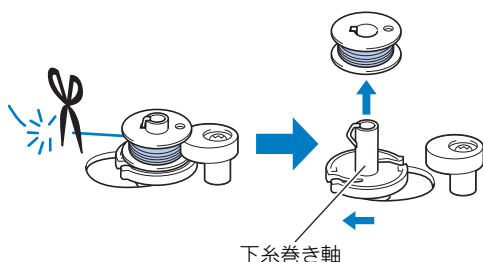
フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

注意

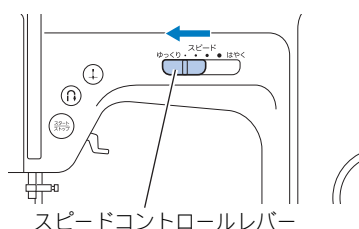


- ボビンの回転が止まるか、回転のスピードがゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。そのまま続けると故障の原因となります。

15 糸を切り、下糸巻き軸を左に戻し、ボビンを軸から外します。



16 スピードコントロールレバーをもとの位置に戻します。



お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回したりすると、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。
- 下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません（縫製できません）。

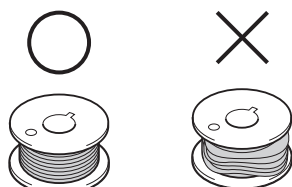
下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをミシンにセットします。

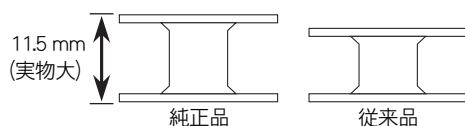
！ 注意



- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売の純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、けが・故障の原因となります。

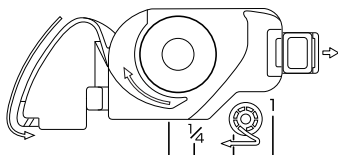


下糸をセットするときや交換するとき
は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

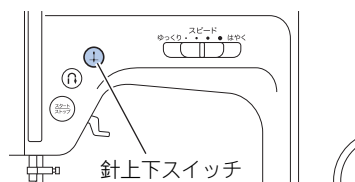


お知らせ

- ボビンをセットする方向が、針板周辺に刻印されています。そちらもあわせて見てください。



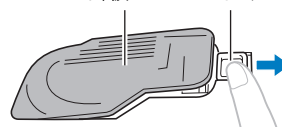
- ① (針上下スイッチ) を1回または2回押して針を上へ上げ、押えレバーを上げます。



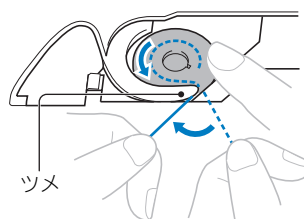
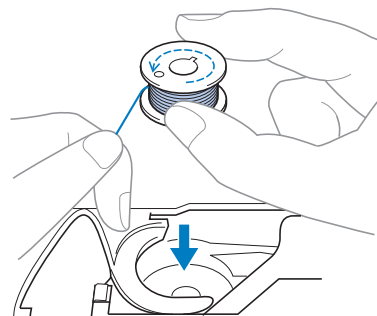
- ② 電源を切ります。

- ③ 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かし、針板ふたを取り外します。

針板ふた つまみ



- ④ 糸が左巻きになるように、右手でボビンをセットし、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりツメに引っかけた後、ミゾにそって糸を軽く引っ張ります。



！ 注意

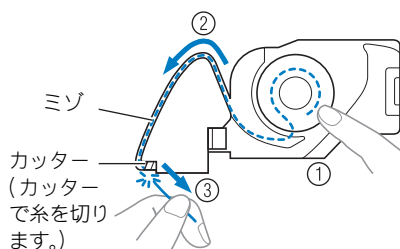


- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

5 図のように、右手でポピンを軽く押えながら、ミゾにそって糸を通します。(①、②)

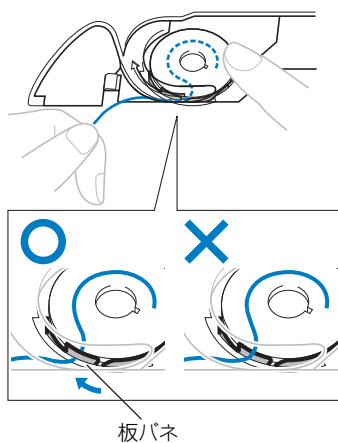
- ・このとき、ポピンが左回りに軽く回ることを確認してください。

そのあと、手前に引きカッターで糸を切ります。(③)



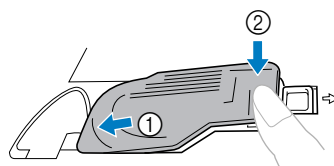
お願い

- 内かまの板バネの間に確実に糸が入っていないと、糸調子不良の原因となります。詳細は、「糸調子を調節する」(→ P.35) を参照してください。



6 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の突起部を本体に差し込んでから ①、右側を上から押します ②。

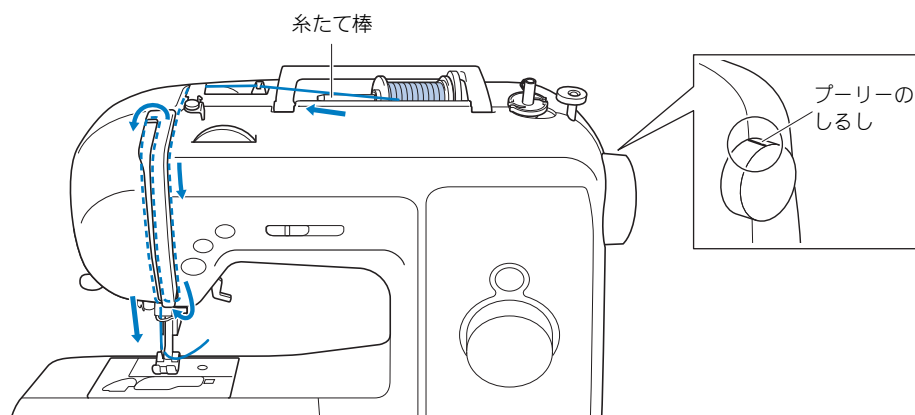


お知らせ

- 下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、上糸をセットしてから「下糸を引き出してからぬうとき」(→ P.25) を参照してください。

上糸を通す

上糸用の糸をセットし、針に糸を通します。



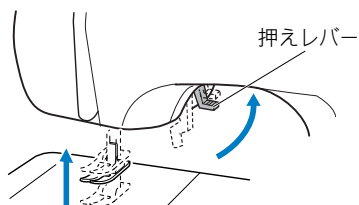
！ 注意



- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 糸通し装置は、11～16番の家庭用ミシン針（HA×1）を使うときに使用できます。また、メタリック糸やナイロン透明糸などの特殊な糸を使用する場合、糸通し装置は使用できません。
- 針と糸は適切な組み合わせで使用してください。針と糸の適切な組み合わせは「布地と糸の種類による針の使い分け」（→P.26）を参照してください。
- 糸通し装置が使用できない場合は、以降の「手で針に糸を通すとき」（→P.24）を参照してください。
- 20番以下の太い糸は使用しないでください。

1 電源を入れます。

2 押えレバーを上げます。

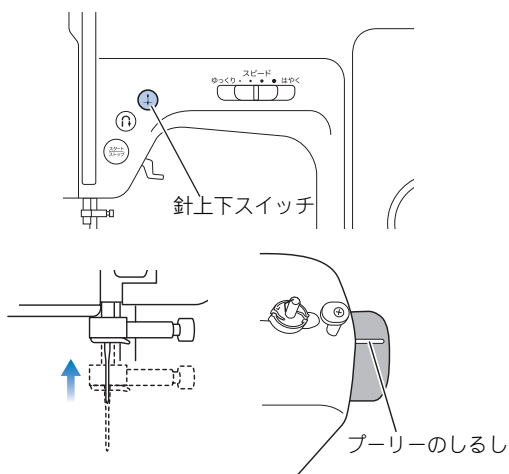


！ 注意



- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

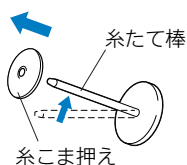
3 (針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上に戻します。



- ・ 針が正しく上に上がっていない場合、上糸を通すことができません。プーリーのしるしが上図のように上にきている状態が、正しい位置です。この位置にきていないときは、必ず針上下スイッチで針を上に戻してから、以降の操作をしてください。

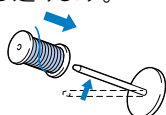
4 電源を切ります。

- 5** 糸たて棒を起し、糸こま押えを抜きます。



- 6** 上糸用の糸こまを糸たて棒にいっぱいまで差し込みます。

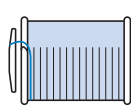
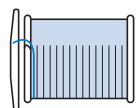
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差し込みます。



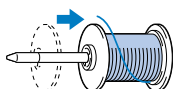
注意



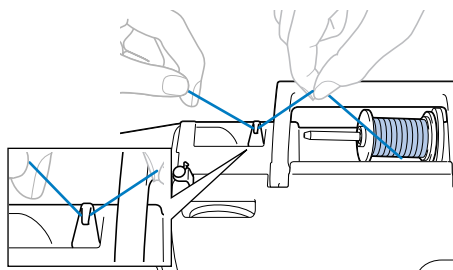
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



- 7** 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

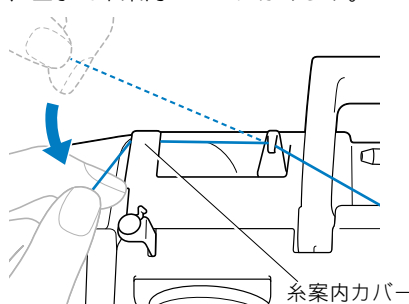


- 8** 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。

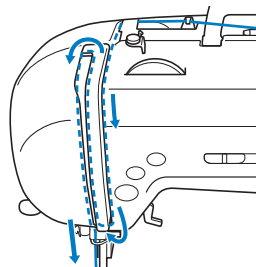


- 9** 糸を糸案内カバーの奥から手前にかけます。

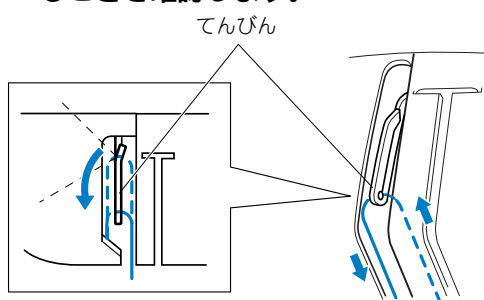
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



- 10** ミゾにそって、ミシン本体に表示されている番号順に糸を通してください。



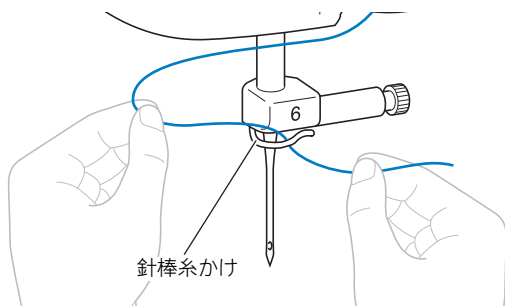
- 11** 図のようにてんびんに糸がかかっていることを確認します。



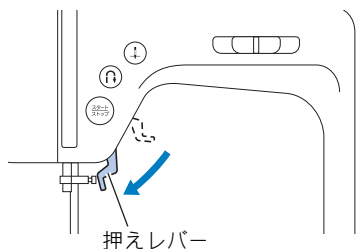
お知らせ

- 針が下がっているときは、てんびんに糸をかけることはできません。上糸を通す前に、針上下スイッチで針を上げておいてください。

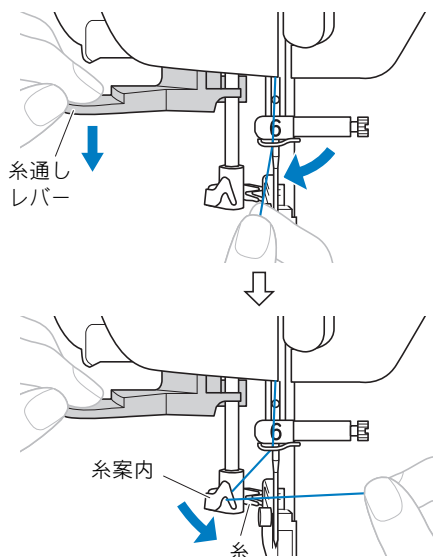
- 12** 針棒糸かけに糸を通します。
左手で糸を持ち、右手で糸かけを行うと糸かけがしやすくなります。



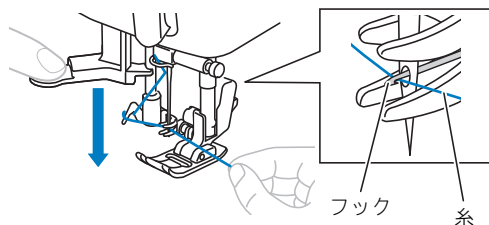
- 13** 押えレバーを下げます。



- 14** 糸通しレバーを少し下げた状態で糸案内に糸を引っかけます。



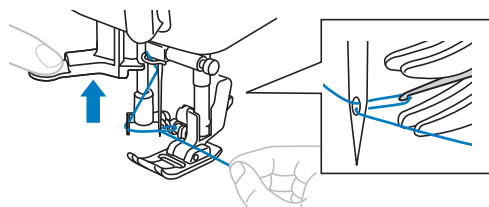
- 15** 糸通しレバーをいっぱいまで下げ、針穴から飛び出したフックに糸を引っかけます。



お願い

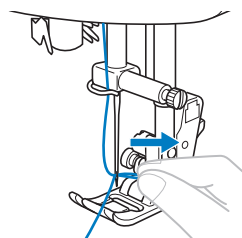
- 針が上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。糸を通す前に、針を①(針上下スイッチ)で上げておいてください。詳細は、「上糸を通す」③(→P.21)を参照してください。
- 糸通しレバーをいっぱいまで下げないと、フックが完全に回転しないため、糸が針穴に通りません。糸が通らなかった場合は押えレバーを上げ、⑨(→P.22)からやり直してください。このとき、針が上がっていることを確認してください。

- 16** 糸を軽く持ったまま、糸通しレバーを元に戻します。



▶ 糸がフックに引っ張られ、針穴に通ります。

- 17** 針に通った糸の輪をゆっくりと後ろ側へ引き、針穴から糸の端を引き出します。



注意

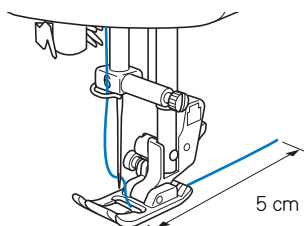
- 糸を無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。



お願い

- 糸通しが正常に行われなかった場合は、手順14からやり直してください。

- 18** 押えレバーを上げ、糸の端を押えの間に通して後ろ側に5cmほど引き出します。



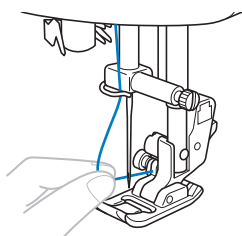
▶ 上糸のセットが完了しました。

■ 手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できない場合は、以下の手順で針に糸を通します。

- 1** 「上糸を通す」の①～⑫に従って針棒糸かけまで糸を通し、押えレバーを下げます。

- 2** 針穴の手前から向こう側に、手で糸を通します。

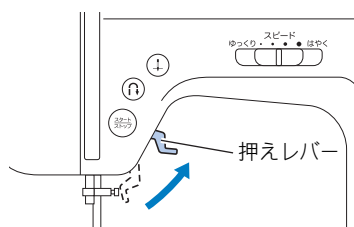


！ 注意

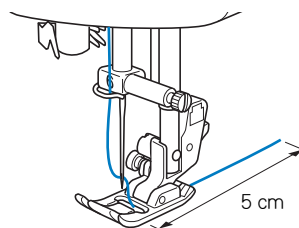


- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

- 3** 押えレバーを上げます。



- 4** 糸の端を押えの間に通して後ろ側に5 cmほど引き出します。

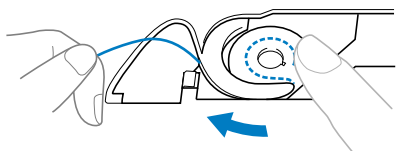


下糸を引き出してからぬうとき

ギャザーをぬうとき、フリーモーションキルトをするときなどは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

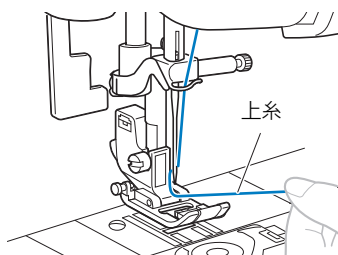
① 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

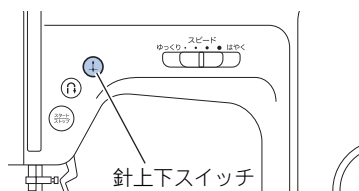


・ 針板ふたは取り外したままにしておいてください。

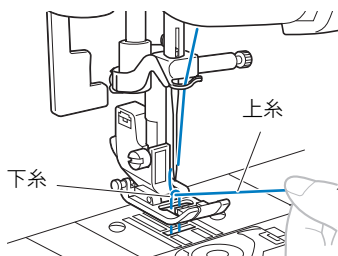
② 上糸の端を軽く持ちます。



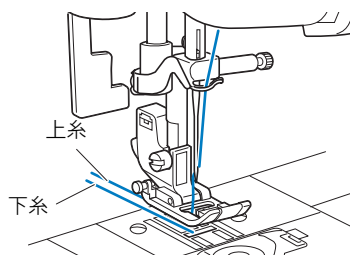
③ 針が上がっている状態で、④（針上下スイッチ）を2回押します。



④ 上糸をゆっくりと上に引き、下糸の糸端を引き出します。

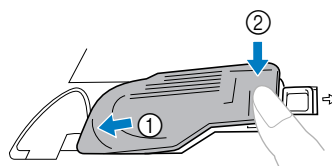


⑤ 下糸を 10cm ほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。



⑥ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の突起部を本体に差し込んでから ①、右側を上から押します ②。



針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと非常に危険です。よく読んで、必ず守ってください。

仕上がりが良くぬい上げるためには、ブラザー純正のミシン針（HA × 1）を推奨します。

！ 注意



- 針の交換は必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります
- 針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。その他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

布地と糸の種類による針の使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60～90	11～14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバシン	絹糸	50	
薄地	ローン	綿糸	60～90	9～11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50	
厚地	デニム	綿糸	30	16
			50	14～16
	コーデュロイ	合繊糸	50～60	
	ツイード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60	HG針ニット用 #11～14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50～90	9～14
		合繊糸		
		絹糸	50	
ステッチ糸の場合		合繊糸・絹糸	30	16
			50～60	11～14



お願い

- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。

■ 糸と針の数字

糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ HG 針ニット用

伸縮性のある布地や目がとびやすい布地を仕上り良くぬい上げることができます。

ブラザー純正「HG 針ニット用 #11（金色）」を推奨します。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用してください。

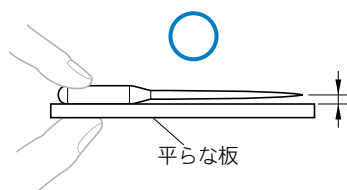
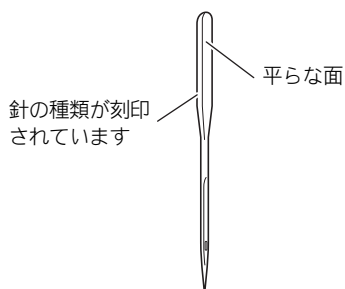
！ 注意



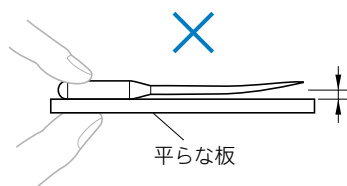
- 布地と糸と針の組み合わせは、左記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。



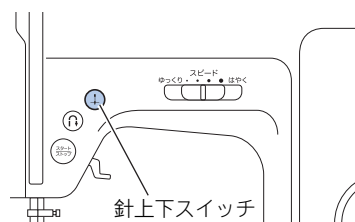
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のネジ回しを用意してください。

- ① (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上へ上げます。



- ② 電源を切ります。

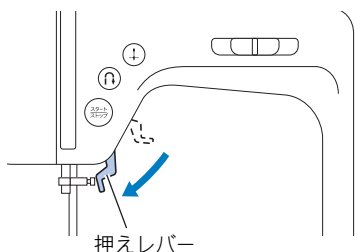


⚠ 注意



- 針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、マシンが作動してけがの原因となります。

- ③ 押えレバーを下げます。

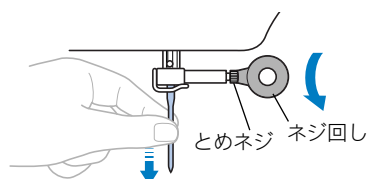


⚠ 注意

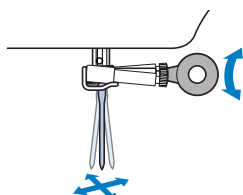


- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

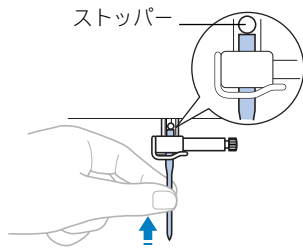
- 4 針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。**
左手で針を持ちながら、右手でネジ回しを手前に回します。



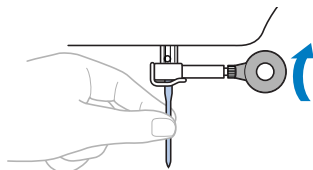
- ・ とめネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。



- 5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。**



- 6 針を左手で押さえたままとめネジをしめます。**
ネジ回しを奥側に回します。



⚠ 注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、とめネジを付属のネジ回しで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換するには

押えに関する注意

押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

！ 注意

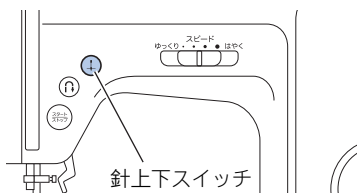


- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず本機純正の押えを使用してください。その他の押えを使用すると、けが・故障の原因となります。

押えを交換する

押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

- 1** (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上上げます。



- 2** 電源を切ります。



！ 注意

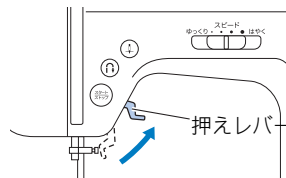


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、マシンが作動してけがの原因となります。

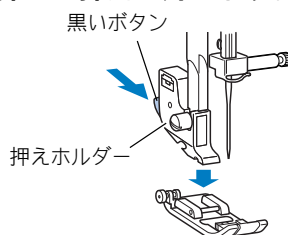


- 押えは前後の向きを確認して正しい向きで取り付けてください。押えの向きを間違えますと針が押えに当たり、折れてけがをする原因となります。

- 3** 押えレバーを上げます。

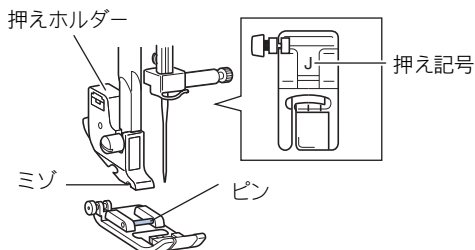


- 4** 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押して押えを外します。



- 5** 取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

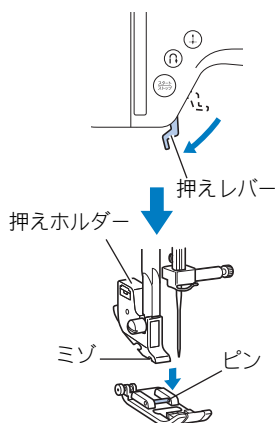
押えに記されている押え記号 (J、A など) が読める向きに置きます。



お知らせ

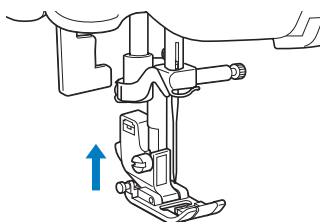
- 各模様で使用する押えの種類は、模様表示窓に表示されます。模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→ P.33)を参照してください。

- ⑥** 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめめます。



▶ 押えが取り付けられます。

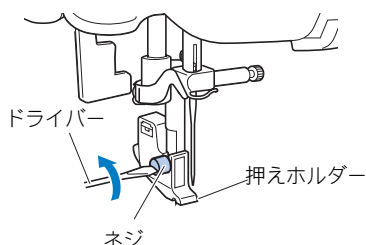
- ⑦** 押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。



押えホルダーを外す

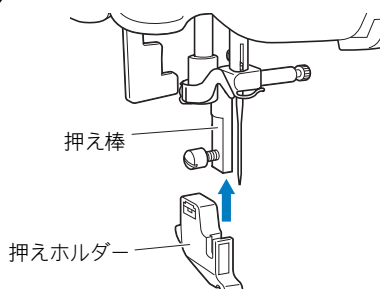
お手入れをするときや別売のウォーキングフットを取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- ①** 押えを外します。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。
- ②** 押えホルダーのネジをゆるめ、押えホルダーを外します。
ドライバーを奥側に回します。



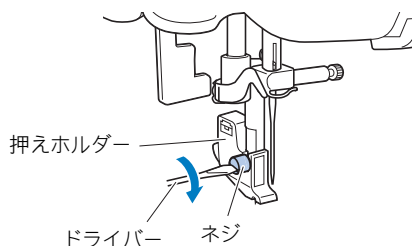
■ 押えホルダーを取り付けるとき

- ①** 押えホルダーを押え棒に合わせます。



- ②** 押えホルダーを右手で持ち上げながらネジをしめます。

左手でドライバーを手前に回します。



お願い

- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

⚠ 注意



- 押えホルダーのネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと押えホルダーが外れ、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

針停止位置を変更するには

通常は、針が布地に刺さった状態でミシンが止まるように設定されています。針が上がった状態でミシンが止まるように設定を変更することができます。

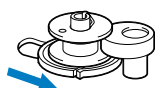
1 電源を切ります。



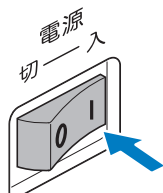
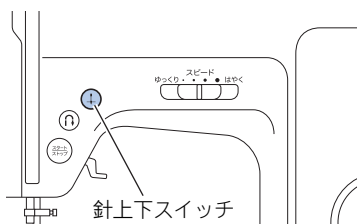
2 模様選択ダイヤルで、11を選びます。



3 下糸巻き軸を右側に動かします。



4 (針上下スイッチ)を押しながら、ミシンの電源を入れます。



“ピッ”と鳴ったら、針上下スイッチから指を離します。

▶ 針の停止位置が上に変更されます。

お知らせ

- もう一度同じ操作をすると、針の停止位置は下に戻ります。

■ 針停止位置が上るとき

ぬい終わりに、必ず針が上位置で止まります。



お知らせ

- ぬい終わった後に布地を引き出すことができます。

■ 針停止位置が下るとき

ぬい終わりに、必ず針が下位置で止まります。



お知らせ

- ぬう方向を変えると時（「ぬう方向を変える」(→ P.36)）や、ぬい途中で止めたいときにお使ください。布地がずれません。

2 ぬい方の基本

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

！ 注意



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリー、てんびんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。



- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けが・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えにあたって折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ソーイングの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1 電源を入れる

ミシンの電源を入れます。
「電源を入れる」(→ P.15) を参照してください。



2 模様を選ぶ

ぬう箇所に合わせて模様を選びます。
「模様を選ぶ」(→ P.33) で説明します。



3 押えを取り付ける

模様に合った押えを取り付けます。(押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。)
「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。



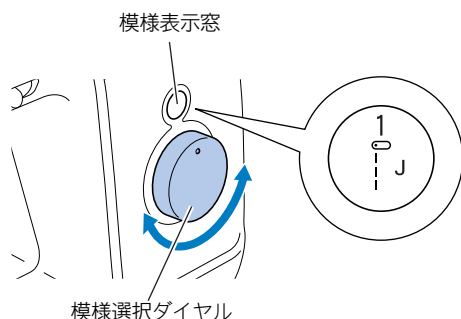
4 スタート

布をセットし、ミシンをスタートさせます。ぬい終わったら糸を切ります。
「ミシンをスタートさせる」(→ P.33) を参照してください。

模様を選ぶ

模様選択ダイヤルを使って、各種の模様を選びます。

- ① 電源を入れます。
- ② 模様選択ダイヤルを回し、ぬいたい模様を選択します。



▶ 模様が模様表示窓に表示されます。

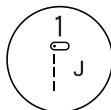
- ③ 模様表示窓に表示された押えを取り付けます。

・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。



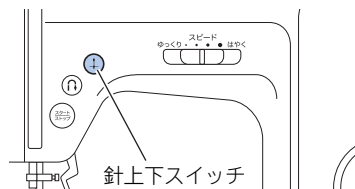
お知らせ

- 模様表示窓の中に、使用する押えの種類がアルファベット (J、A など) で表示されます。

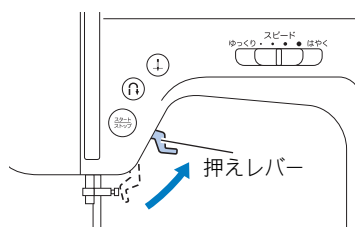


ミシンをスタートさせる

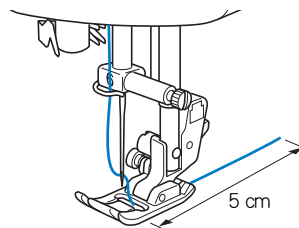
- ① ① (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上に上げます。



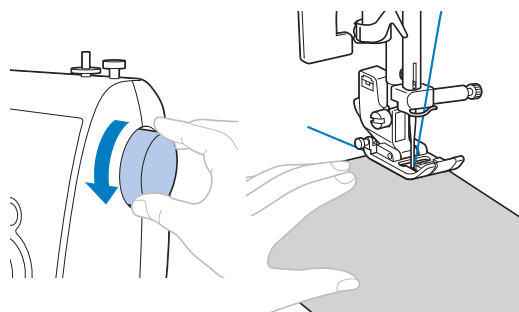
- ② 押えレバーを上げます。



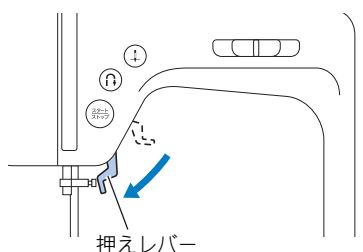
- ③ 押えの下に布地を置き、上糸を押えの下に通して後ろ側に5 cmほど引き出します。



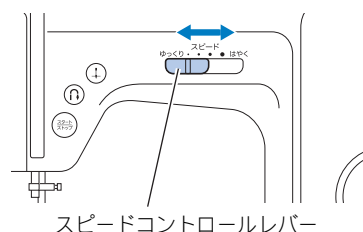
- ④ 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。



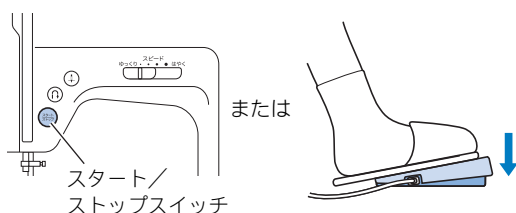
5 押えレバーを下げます。



6 スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。



7 (スタート/ストップスイッチ) を1回押します。(フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。)

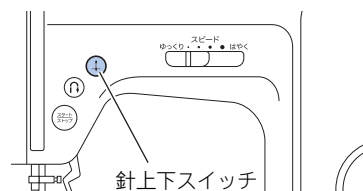


▶ ミシンがスタートします。

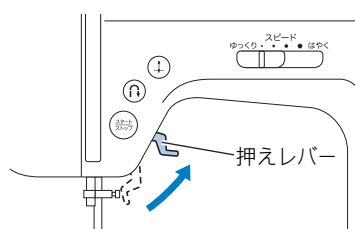
8 ぬい終わりまで進んだら、もう一度 (スタート/ストップスイッチ) を押します。(フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーを踏むのをやめます。)

▶ ミシンが止まります。

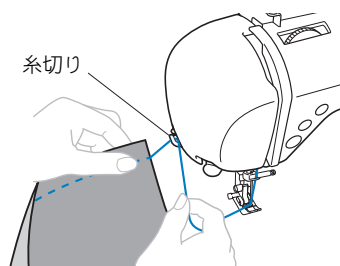
9 (針上下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。



10 押えレバーを上げます。



11 布地を左に引き、本体左側面の糸切りを上糸と下糸を引っかけて切ります。

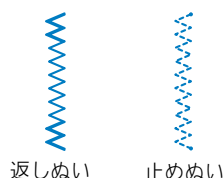


お知らせ

- フットコントローラー・ジャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、(スタート/ストップスイッチ) でミシンをスタートさせることができません。

■ 返しぬい / 止めぬいをする

直線またはジグザグ模様でぬったときに (返しぬいスイッチ) を押すと、返しぬいになります。それ以外の模様でぬったときに (返しぬいスイッチ) を押した場合は、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で3～5針重ねてぬいます。



お知らせ

- 返しぬい / 止めぬいのどちらが設定されているかは、「模様設定一覧」(→ P.61) を参照してください。

糸調子を調節する

上糸と下糸の強さのバランス（糸調子）を調節します。

「布地と糸の種類による針の使い分け」（→ P.26）で記載している組み合わせでぬった場合は、自動的に適切な糸調子になります。思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、糸調子ダイヤルを使って上糸の調子を強く、または弱くして調節します。

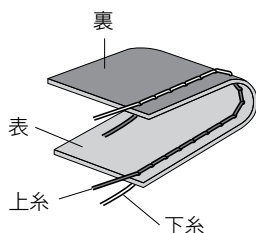


お知らせ

- 本ぬいをする前に、布の端などで試しぬいをするをお勧めします。

■ 正しい糸調子

縫製をきれいに仕上げるために、糸調子は大切なポイントです。糸調子が強すぎたり、弱すぎたりすると、ぬい目が弱かったり、布地にしわがよったりします。



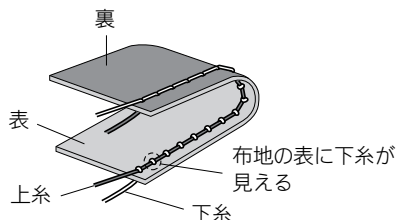
■ 上糸調子が強いとき

布地の表に下糸が見えている状態です。



お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。「下糸をセットする」（→ P.19）を参照してください。



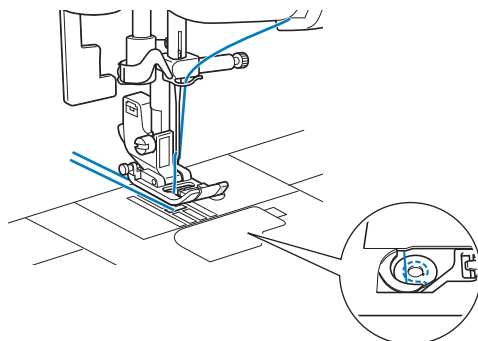
解決方法

糸調子ダイヤルを数字が小さくなる方向へ回し、糸調子を弱くします。



お願い

- ぬい終わったとき、針板ふたを外して糸が下図のように見えることを確認してください。糸が下図のように見えないときは、内かまの板バネの間に下糸が入っていません。下糸を正しく入れなおしてください。（→ P.19）



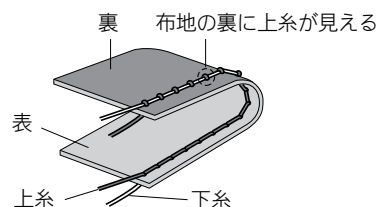
■ 上糸調子が弱いとき

布地の裏に上糸が見えている状態です。



お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。「上糸を通す」（→ P.21）を参照してください。



解決方法

糸調子ダイヤルを数字が大きくなる方向へ回し、糸調子を強くします。



上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ソーイングをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

本製品は、模様に合わせて適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。

しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

試しぬいは、実際の布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

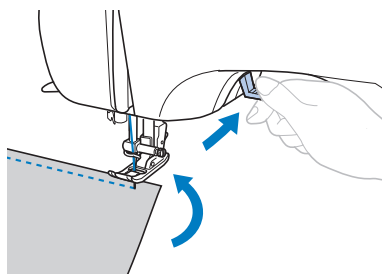
ぬう方向を変える

① 角までぬったら、ミシンを止めます。

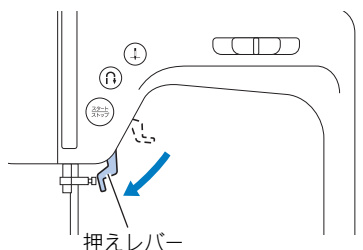
このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、④（針上下スイッチ）を押します。

② 押えレバーを上げ、布を持って回します。

針位置を基点に回転させます。

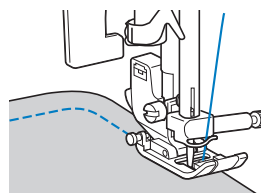


③ 押えレバーを下げ、続きをぬいます。



カーブをぬう

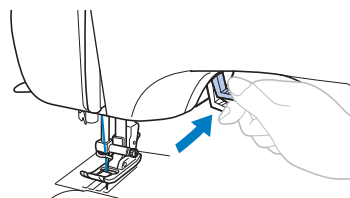
途中でミシンを止めながら、少しずつ向きを変えてぬいます。



厚い布地をぬう

■ 押えの下に布地が入らないとき

押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。（この時に押えレバーは固定されません。）

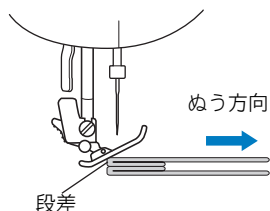


！ 注意

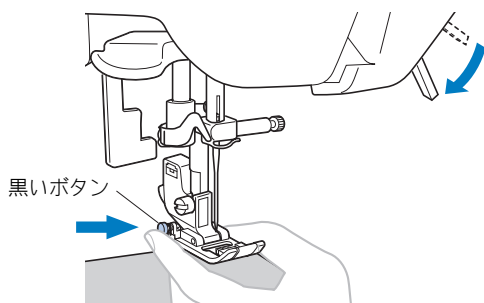


- 布の種類によってぬえる厚さが異なります。無理に布地を押し込んだりすると針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

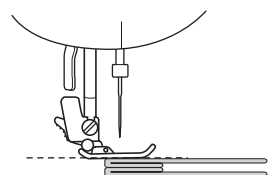
- **ぬい始めに段差があって布地が送られないとき**
 図のように布地に段差があり、押えが傾いてしまい、布地が送られない場合があります。
 その場合は、押え固定ピン（ジグザグ押え<J> 左側の黒いボタン）の機能を使って、押えを水平にしてぬうと、スムーズに布地を送ることができます。



- ① 押えレバーを上げます。
- ② ぬい始めの位置を合わせて、布地をおきます。
- ③ ジグザグ押え<J>を水平に保持して左側の黒いボタンを押したまま、押えレバーを下げます。



- ④ ボタンから手を離します。
 ▶ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



・ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

！ 注意



- 布の種類によってぬえる厚さが異なります。無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

面ファスナー (マジックテープ®) をぬう



注意

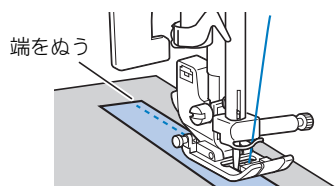
- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針(9～11番)でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。



お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。
 針が通らない場合は、厚地用の針と糸(→P.26)に交換してください。

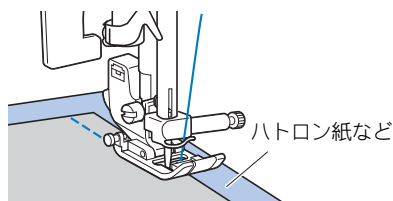


お知らせ

- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

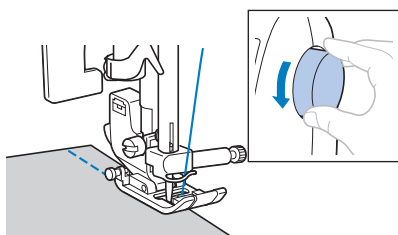
薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。
 その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



特に厚い布地をぬう

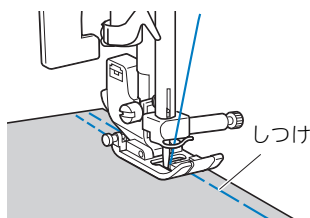
デニムなど、特に厚い布地をぬうときは、プーリーを手で回しながらぬい進めます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

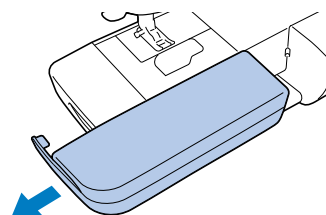
また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。



筒ものをぬう

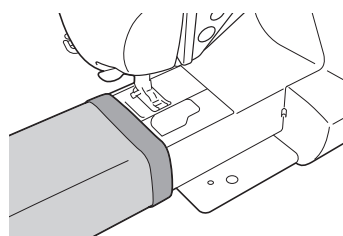
そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フリーアームを使うと便利です。

- ① 補助テーブルを左に引いて取り外します。

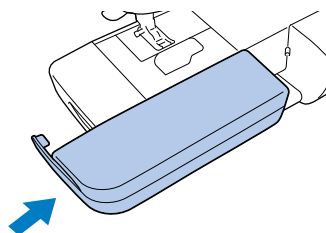


▶ フリーアームの状態になります。

- ② 布地のぬう箇所をアーム部分に通した状態でぬいます。



- ③ フリーアームを使い終わったら、補助テーブルを取り付けます。



3 いろいろなぬい方

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりは、次の5模様から選択します。

名称	模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬい スイッチの はたらき
ジグザグ	6 	J	通常のほつれ止め、アップリケのぬいつけ	3.5	1.4	返しぬい
ジグザグ (大)	7 	J	通常のほつれ止め、アップリケのぬいつけ	5.0	2.0	返しぬい
点線ジグザグ	12 	J	厚地・伸びる布地のほつれ止め、ゴムひもつけ	5.0	1.0	止めぬい
たち目かがり	8 	G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.0	止めぬい
	9 	G	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5	止めぬい

それぞれ次の点に注意してぬってください。

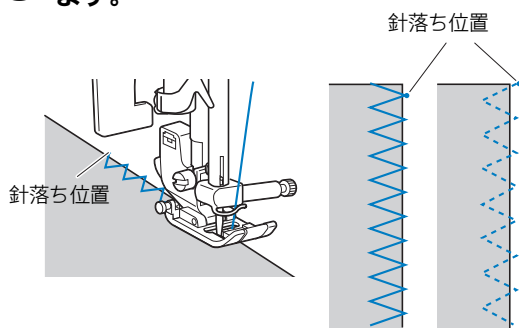
⚠ 注意



- **押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。**万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。

ジグザグ押え〈J〉を使った たち目かがり

- 1 電源を入れます。
- 2 模様選択ダイヤルで、⁶ ⁷ または ¹² を選びます。
- 3 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。
- 4 布端より少し外側に針を落としてぬいます。



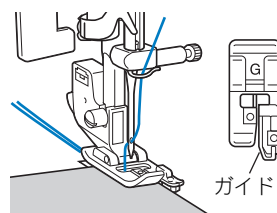
⚠ 注意

- プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

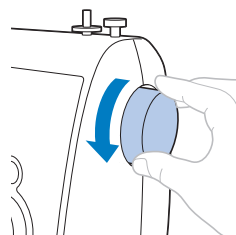
たち目かがり押え〈G〉を使った たち目かがり

- 1 電源を入れます。
- 2 模様選択ダイヤルで、⁸ または ⁹ を選びます。
- 3 たち目かがり押え〈G〉を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

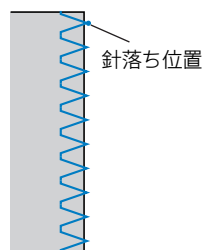
- 4 押えのガイドと布地の端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



- 5 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



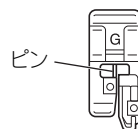
- 6 布地の端を押えのガイドにそわせながらぬいます。



- 7 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

⚡ お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてください。前方向や横方向に布を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。



直線ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の5模様から選択します。

名称		模様	押え	用途	振রি幅	ぬい目の長さ	返しぬい スイッチの はたらき
直線	左基線 (普通)	1 	J	普通地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	2.5	返しぬい
	左基線 (細かい)	2 	J	薄地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	1.8	返しぬい
	左基線 (粗い)	3 	J	厚地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	4.0	返しぬい
	中基線	4 	J	ファスナーつけ、地ぬい、 ギャザー、ピンタックなど	—	2.5	返しぬい
3重ぬい		13 	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈 夫にしたいとき、伸びる布 地のとき、飾りぬい	0	2.5	止めぬい

※ 地ぬいとは、2枚以上の布をぬい合わせることです。

注意

● **押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。**万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。

① ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。

② 電源を入れます。

③ 模様選択ダイヤルで、 または 13  を選びます。

④ ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

⑤ 返しぬいが必要な場合は、ぬい始めの位置より3～5針分手前に針を刺して返しぬいをします。
・「返しぬい / 止めぬいをする」(→ P.34) を参照してください。

⑥ ミシンをスタートさせます。
・「ミシンをスタートさせる」(→ P.33) を参照してください。

⑦ ぬい終わりに返しぬいが必要な場合は、3～5針ほど返しぬいをします。
・「返しぬい / 止めぬいをする」(→ P.34) を参照してください。

⑧ ぬい終わったら糸を切ります。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の2模様から選択します。

名称	模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬい スイッチの はたらき
まつりぬい	10 	L	普通地のまつりぬい	0	2.0	止めぬい
	11 	L	伸びる布地のまつりぬい			

次の手順でまつりぬいをします。

！ 注意



- **押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。**万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。



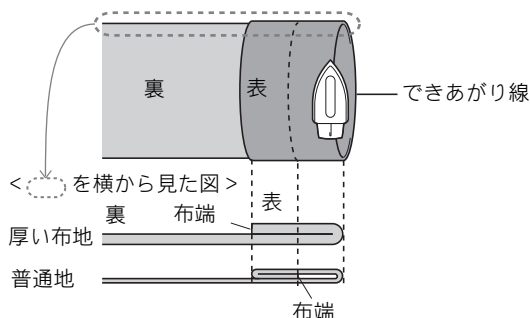
お知らせ

- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

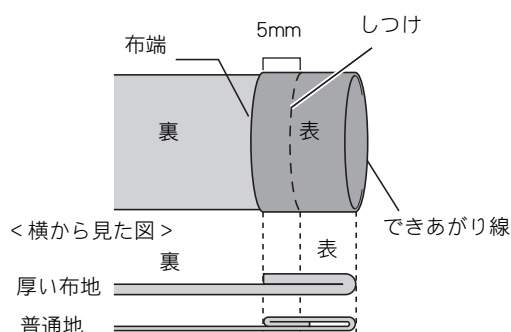
① すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



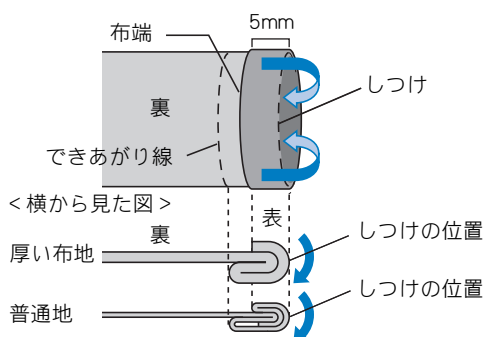
② できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



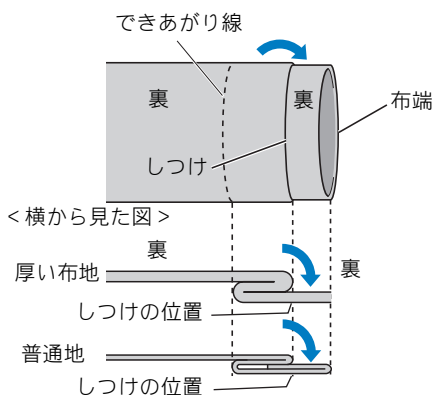
③ 布端から約5mmのところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



- 4** しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



- 5** 布端を開いて裏返します。



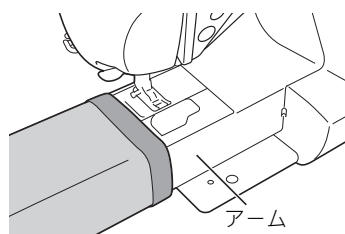
- 6** 電源を入れます。

- 7** 模様選択ダイヤルで、 または  を選びます。

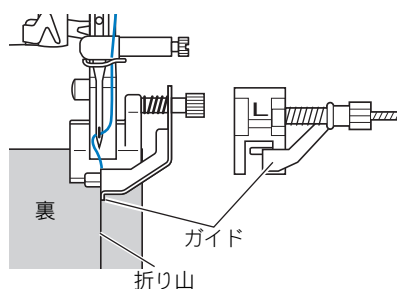
- 8** まつりぬい押え<L>を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

- 9** ミシンをフリーアームにします。
・「筒ものをぬう」(→ P.38) を参照してください。

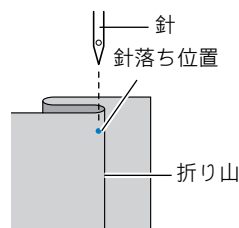
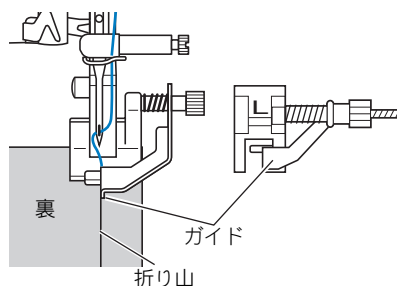
- 10** アームに布地を入れ、布地を回すことができることを確認します。



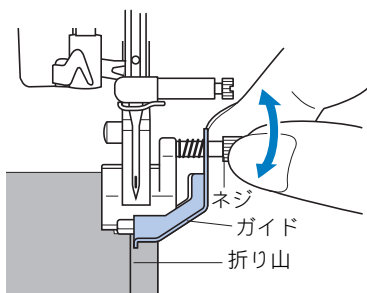
- 11** 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



- 12** 針の左落ちがわずかに折り山にかかるように布地の位置を調整します。



- 13** 押えのネジを回して、折り山に押えのガイドがピッタリとあたるように調整し、ガイドにそわせながらぬいます。



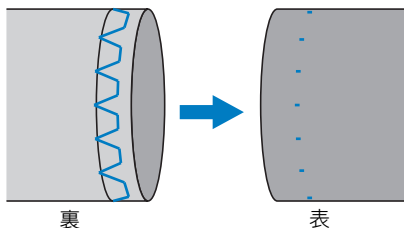
- 14** ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。



お願い

- ぬい終わった後は、布を後ろに引いてください。前方向や横方向に布を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

- 15** しつけをほどき、布地を表に返します。

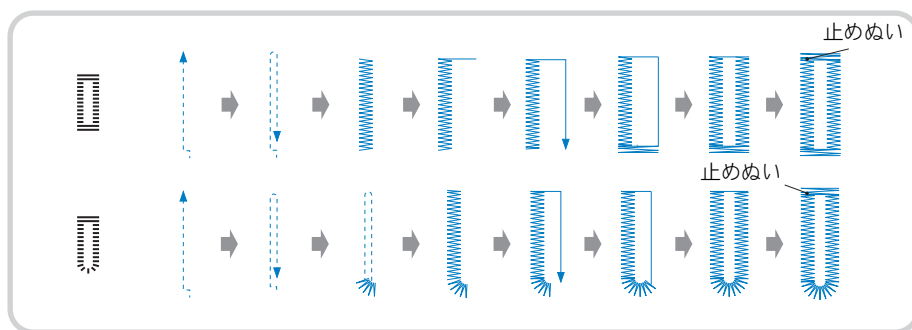


ボタン穴かがりをする

ボタンホールを作ります。次の2模様から選択できます。

名称	模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬいスイッチのはたらき
ボタン穴かがり	15 	A	張りのある素材の両止めぬい	5.0	0.5	止めぬい
	16 	A	薄地、普通地のねむり穴、横穴			

「ボタンの直径+厚み」が約 30 mm 以下のボタンホールを作ることができます。
ボタン穴かがりは、次のようにぬわれます。

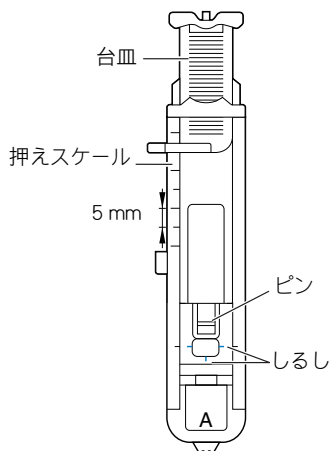


！ 注意

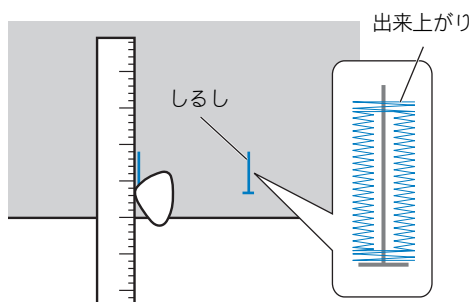


- **押えの交換は、必ず電源を切ってください。** 万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。

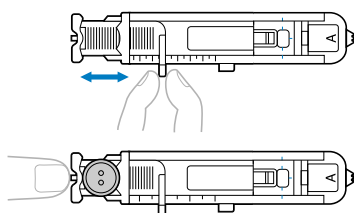
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え <A> の各部の名称は次のとおりです。



- 1** ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。

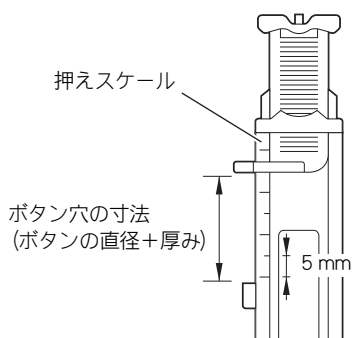


- 2** ボタン穴かがり押え〈A〉の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

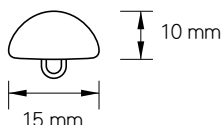


■ ボタンが台皿にのらないとき

「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り（1目盛り 5 mm）に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



例：直径 15 mm、厚み 10 mm のボタン
→スケールを 25 mm に合わせる



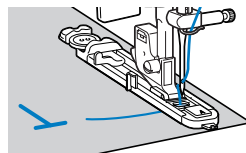
▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

- 3** 電源を入れます。

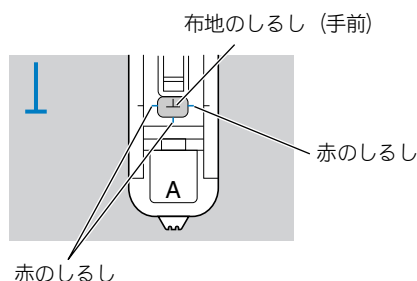
- 4** 模様選択ダイヤルで、**15** または **16** を選びます。

- 5** ボタン穴かがり押え〈A〉を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

- 6** 上糸を下図のように押えの穴に通し、押えの下に引き出します。

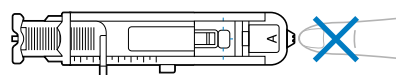


- 7** 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



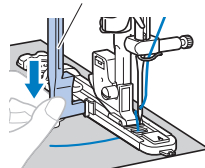
お願い

- 押えを下げる時に、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴が正確な大きさにぬえません。



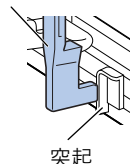
- 8** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

ボタン穴かがりレバー

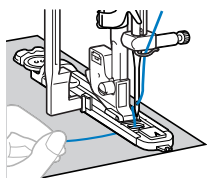


このとき、ボタン穴かがりレバーが押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



- ⑨ 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

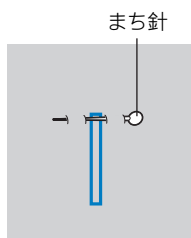


▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

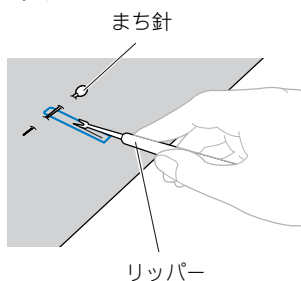
- ⑩ 針を上へ上げ、押えを上げて布地を取り出し、糸を切ります。

- ⑪ ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

- ⑫ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



- ⑬ 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



！ 注意



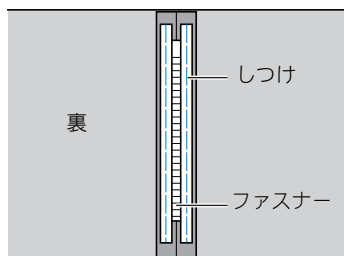
- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。



お知らせ

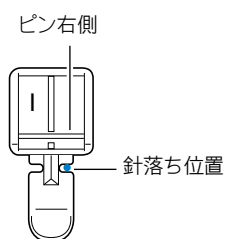
- ボタン穴かがりをするときは、必ず試しぬいをしましょう。

- ⑤ ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



- ⑥ 模様選択ダイヤルで、模様④を選びます。

- ⑦ 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

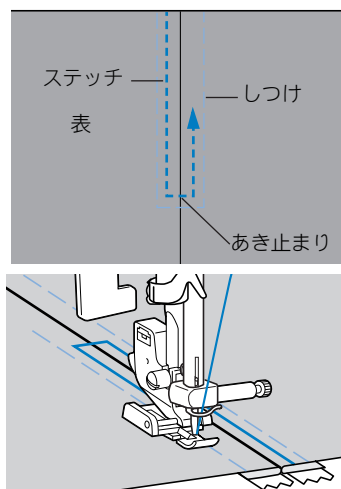


・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

⚠ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず中基線を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

- ⑧ 布地の表からステッチをかけます。



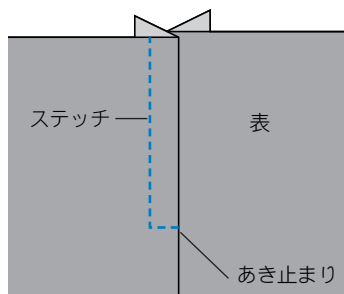
⚠ 注意

- ぬう際には、針がファスナーに当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。けがの原因にもなります。

- ⑨ しつけをほどこします。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇あきや後ろあきのときに使用します。

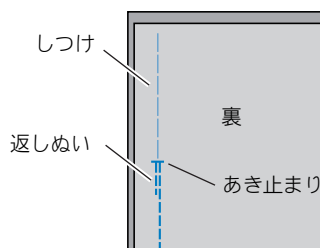


ここでは、図のように左側にステッチを入れる場合を例に説明します。

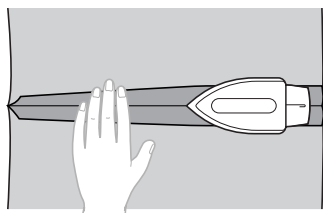
① ジグザグ押え<I>を取り付け、直線ぬいであき止まりの位置まで地ぬいをします。

- ・ 布地は表どうしを合わせ、あき止まり部分は返しぬいをします。
- ・ 地ぬいについては、「直線ぬいをする」(→ P.41) を参照してください。

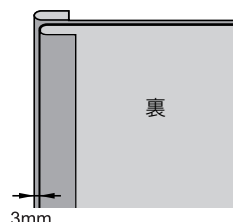
② ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



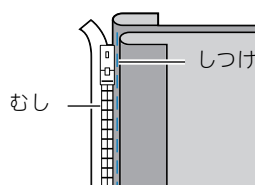
③ ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



④ 右側(ステッチが入らない方)のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



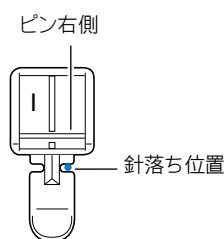
⑤ 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で止めます。



⑥ 模様選択ダイヤルで、模様⁴を選びます。

⑦ 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

この例とは反対側をぬう場合は、ピンの左側を取り付けます。

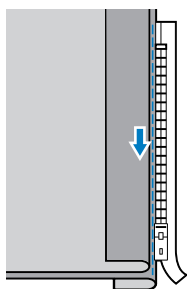


- ・ 「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

! 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず中基線を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

- ⑧ 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

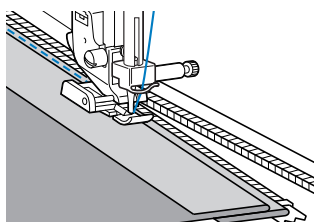


⚠ 注意

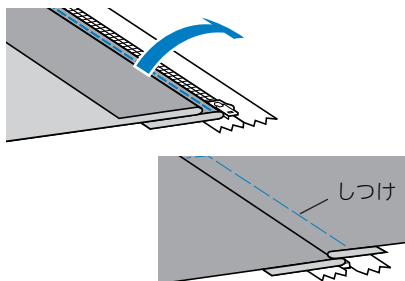


- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。けがの原因にもなります。

- ⑨ 残り5cmほどまでぬったらいったんミシンを止めます。針を下げたままで押えを上げ、ファスナーを開いて続きをぬいます。



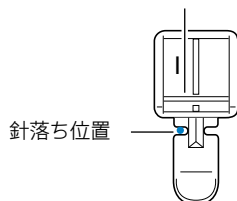
- ⑩ ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



- ⑪ 片押え<I>のピンのもう一方を押えホルダーに取り付けます。

⑦ で右側に付けた場合は、左側に付け替えます。

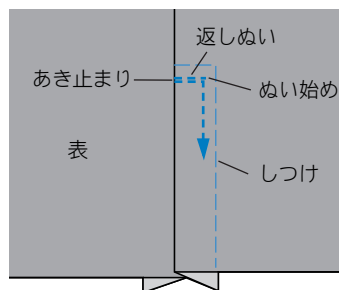
ピン左側



- ・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

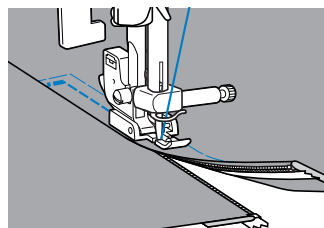
- ⑫ 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、押えの端をファスナーのむしにそわせてぬいます。



- ⑬ 残り5cmほどまでぬったらいったんミシンを止めて、針を下げたままで押えを上げます。

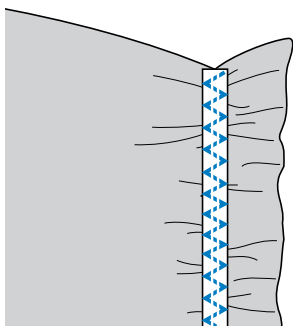
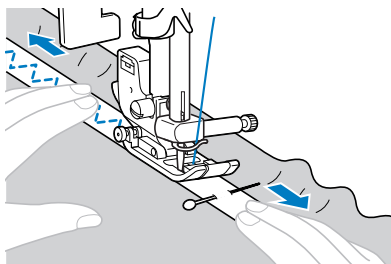
- ⑭ でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



- 4** ジグザグ押えくゝを取り付けます。
 ・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。

- 5** ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



! 注意



- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／クレイジーキルトをぬう

アップリケやパッチワークをするときに使用します。次の2模様から選択します。

名称	模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬい スイッチの はたらき
ジグザグ	6 	J	通常のほつれ止め、アップリケ布のぬいつけ	3.5	1.4	返しぬい
アップリケ	14 	J	アップリケ布のぬいつけ	3.5	2.5	止めぬい

！ 注意

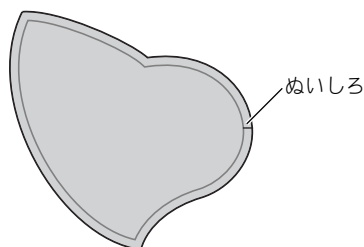


- 押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。

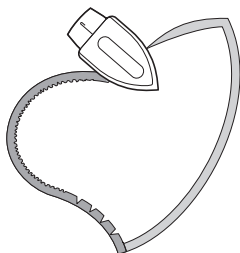
アップリケ

アップリケ押えを使用すると、きれいにぬうことができます。

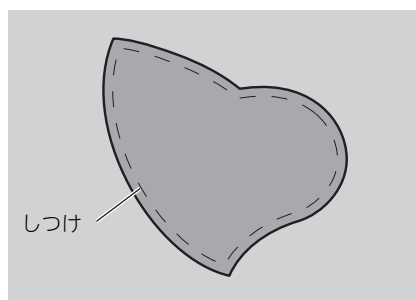
- 1 アップリケ布は3～5mmのぬいしろを付けて裁断します。



- 2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。



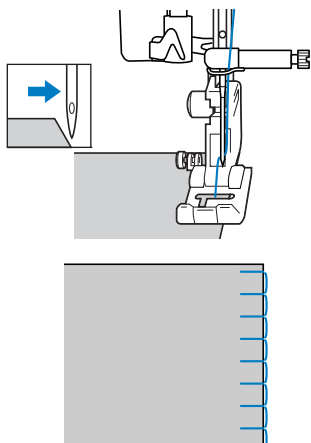
- 3 アップリケ布を表に返して土台になる布に配置し、しつけ、のり、まち針などで固定します。



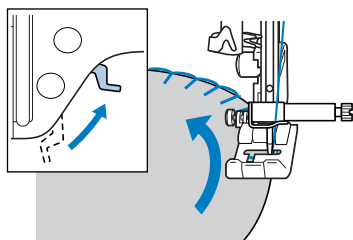
- 4 電源を入れます。

- 5 模様選択ダイヤルで、模様  または  を選びます。

- ⑥** ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。
 ・「押えを交換する」(→ P.29) を参照してください。
- ⑦** プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

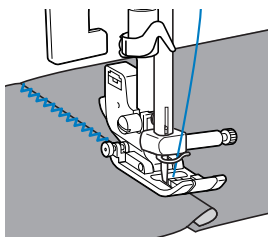


- ・ 急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま押えを上げて、少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク (クレイジーキルト)

- ①** 上になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- ②** 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にするときに使用します。

名称	模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬいスイッチのはたらき
3重ぬい	13 	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき、飾りぬい	0	2.5	止めぬい

！ 注意



- **押えの交換は、必ず電源を切ってから行ってください。**万一スイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因になります。

3重ぬい

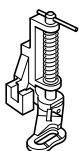
1針あたり3回重ねてぬいます。

- ① 電源を入れます。
- ② 模様選択ダイヤルで、模様¹³を選びます。
- ③ ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。
・「押えを交換する」(→ P.29)を参照してください。
- ④ ミシンをスタートさせます。

その他のぬい方

フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときに、送り歯を下げて布地を送らないようにすることができます。これを「ドロップフィード」といいます。フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えが必要です。



お願い

- キルト押えを使用するときは、手で針に糸を通すか、糸通しレバーで糸を通した後に、キルト押えを取り付けてください。

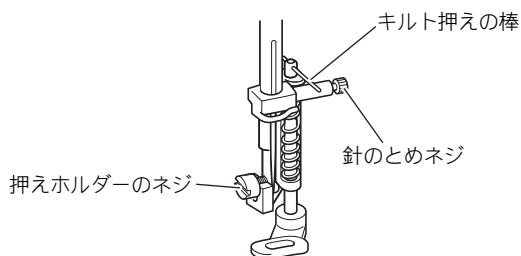
1 電源を切ります。

2 押えと押えホルダーを外します。

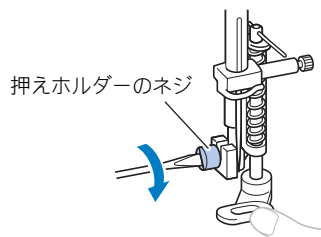
- ・「押えホルダーを外す」(→ P.30) を参照してください。

3 キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針のとめネジの棒の上になるようにします。



4 キルト押えを右手で押さえ、左手で付属のドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

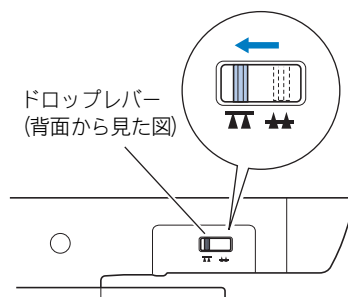


! 注意



- ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

5 本体背面下側にあるドロップレバーを下図の位置にして、送り歯を下げます。

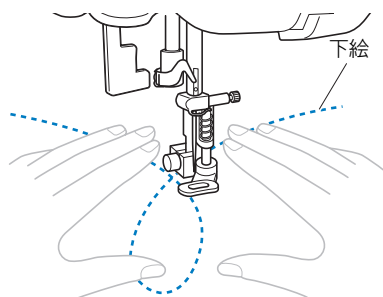


6 電源を入れます。

7 模様選択ダイヤルで、模様 または を選びます。

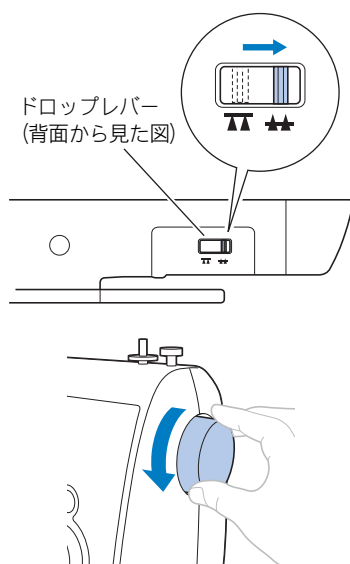
8 たるまないように両手で布地を張りながら、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



- ・送り歯が下がっているときは、返しぬいできません。

9 ぬい終わったらドロップレバーを下図の位置にして、プーリーを1回転させて送り歯をもとに戻します。



- ・通常、送り歯は上げておきます。

3

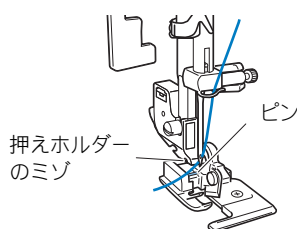
3

注意

- 押えの交換は、
作動してけがの

- 

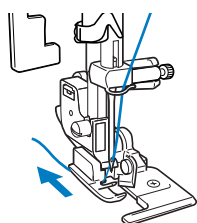
- ⑥** 押えホルダーのミゾとサイドカッター押えのピンが合う位置にサイドカッター押えを置き、押えレバーをゆっくり下げます。



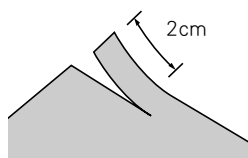
▶ サイドカッター押えが取り付けられます。

- ⑦** 押えレバーを上げ、サイドカッター押えが取り付けられていることを確認します。

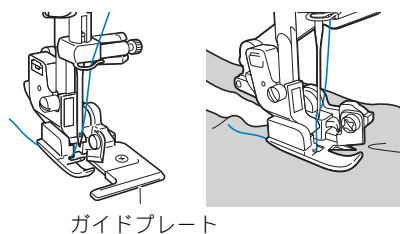
- ⑧** 上糸は、サイドカッター押えの下を通して、後ろ側に引き出します。



- ⑨** 布地のぬい始め部分に 2cm ほどの切り込みを入れます。

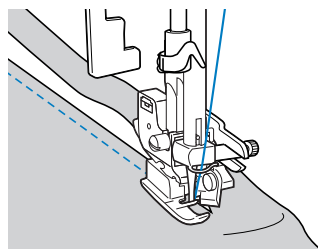


- ⑩** 布地をセットします。
切り込みの右側の布地はガイドプレートの上に、左側の布地は押えの下に置きます。



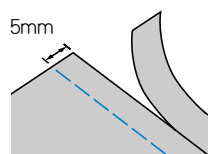
- お願い**
- 布地を正しくセットしないと、布地が切れません。
 - 布地の進みが悪いときは、布地に手を添えて後ろ方向に押してください。

- ⑪** 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬいしろが裁断されながらぬわれます。

模様 1 2 3 でぬった場合、ぬいしろは約 5mm になります。



- お願い**
- サイドカッター押えで切れる布地の厚さは、13 オンスデニム 1 枚程度までです。
 - サイドカッター押えを使ったあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
 - 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押えの刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

4 付録

模様設定一覧

模様の用途や振রি幅・ぬい目の長さなどを一覧にしています。

名称		模様	押え	用途	振り幅	ぬい目の長さ	返しぬい スイッチ
直線	左基線 (普通)	1 	J	普通地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	2.5	返しぬい
	左基線 (細かい)	2 	J	薄地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	1.8	返しぬい
	左基線 (粗い)	3 	J	厚地の地ぬい、ギャザー、 ピンタックなど	0	4.0	返しぬい
	中基線	4 	J	ファスナーつけ、地ぬい、 ギャザー、ピンタックなど	—	2.5	返しぬい
伸縮ぬい		5 	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	2.5	止めぬい
ジグザグ		6 	J	通常のほつれ止め、アップリ ケのぬいつけ	3.5	1.4	返しぬい
ジグザグ(大)		7 	J	通常のほつれ止め、アップリ ケのぬいつけ	5.0	2.0	返しぬい
たち目かがり	8 	G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.0	止めぬい	
	9 	G	厚地・ほつれやすい布地のほ つれ止め	5.0	2.5	止めぬい	
まつりぬい	10 	L	普通地のまつりぬい	0	2.0	止めぬい	
	11 	L	伸びる布地のまつりぬい				
点線ジグザグ		12 	J	厚地・伸びる布地のほつれ止 め、ゴムひもつけ	5.0	1.0	止めぬい
3重ぬい		13 	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にし たいとき、伸びる布地のとき、飾 りぬい	0	2.5	止めぬい
アップリケ		14 	J	アップリケ布のぬいつけ	3.5	2.5	止めぬい
ボタン穴かがり	15 	A	張りのある素材の両止め用	5.0	0.5	止めぬい	
	16 	A	薄地・普通時のねむり穴、横 穴				

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。

本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。

万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店またはお客様相談室（ミシン 119 番）にご相談ください。

ミシンを保管するときの ご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- ・ 温度が著しく高くなる場所
- ・ 温度が著しく低くなる場所
- ・ 急激に温度が変化する場所
- ・ 湿気、湯気の多い場所
- ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- ・ 屋外や直射日光の当たる場所
- ・ ほこり、油煙の多い場所



お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

！ 注意



- 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けが・感電の原因となります。

！ 注意



- ベンジン、シンナー、みがき粉は使用しないでください。変色や変形の原因となります。

かまの掃除

針板の下にあるかまを掃除します。

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

- ① 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

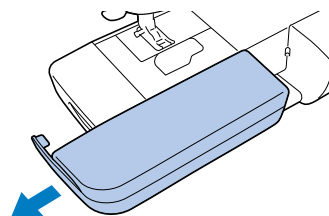
！ 注意



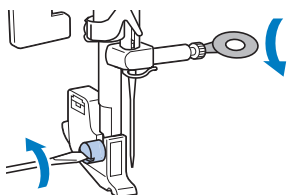
- 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けが・感電の原因となります。

- ② 針と押えを上げます。

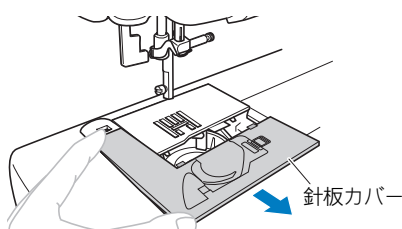
- ③ 補助テーブルを左に引いて取り外します。



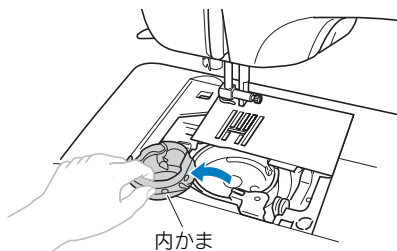
- 4** 押えホルダーのネジをゆるめて押えホルダーを外し、針のとめネジをゆるめて針を抜きます。



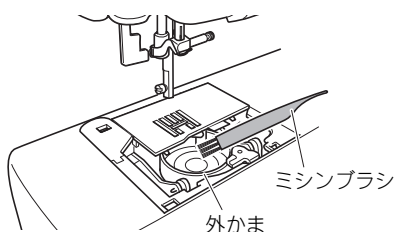
- 5** 針板カバーの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせて針板カバーを外します。



- 6** 内かまを取り出します。
内かまを手前側から上に持ち上げます。

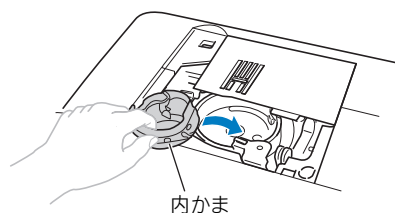
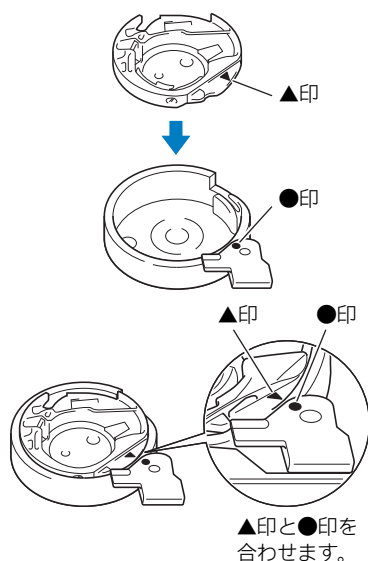


- 7** 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



・ 外かまや内かまに油をささないでください。

- 8** 下図のように▲印と●印が合うように、内かまを取り付けます。



・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

！ 注意



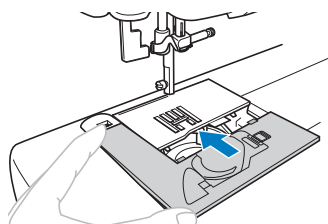
● キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。



内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。

● 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 9** 針板カバーのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートページ、ブラザーソリューションセンター（<http://support.brother.co.jp/>）のQ&Aを確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

よくあるご相談

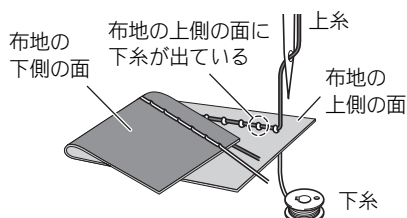
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

■ 上糸がつる	(→ P.64)
■ 布裏で糸がからまる	(→ P.65)
■ 糸調子が合わない	(→ P.67)
■ 布がミシンに入り込んでとれなくなった	(→ P.68)
■ ボビン受け座の下に糸がからまってしまったら	(→ P.71)

上糸がつる

■ こんなとき

- ・ 上糸がピンと一本線になっている。
- ・ 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（イラスト参照）。
- ・ 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- ・ 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- ・ 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



■ 原因

下糸のセットがまちがっている

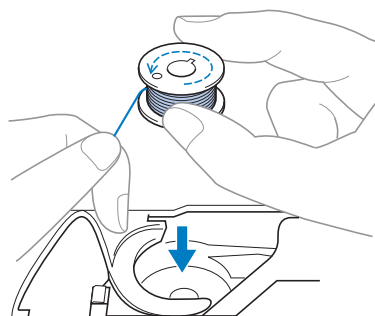
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

- ① 電源を切ります。
- ② いったんボビンを内かまから取り出します。
- ③ 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。

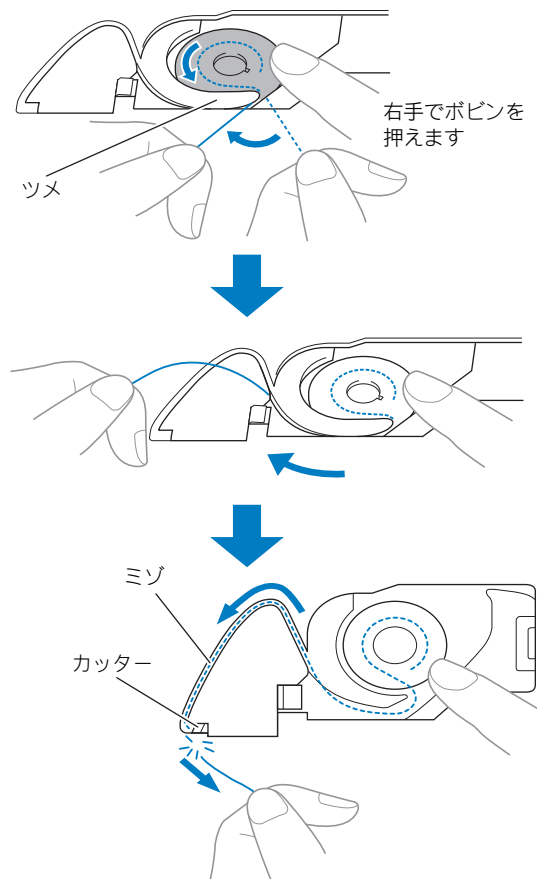
- ・ 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- ・ 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。糸を引っ張りながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。

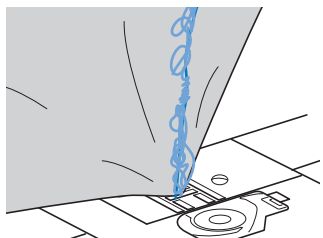


内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子で縫うことができません。

布裏で糸がからまる

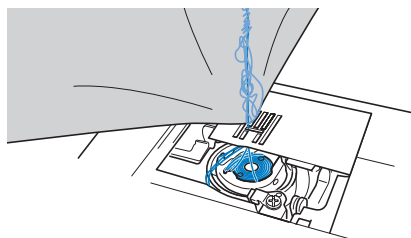
■ こんなとき

- ・ 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ・ ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。

- ・ 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

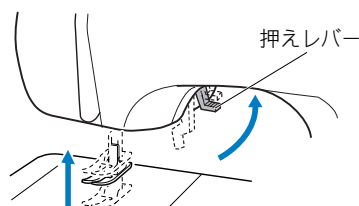
- ・ 「かまの掃除」(→ P.62) を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。

- ・ ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」(→ P.19) と「上糸がつる」(→ P.64) の「対処方法／確認内容」を参照して、セットしなおしてください。

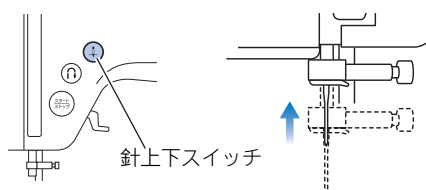
4 押えレバーを上げます。



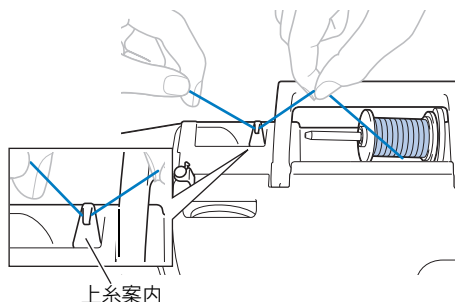
- ・ 押えが下がった状態では、上糸を正しくセットできません。

5 ④(針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上に戻します。

針上下スイッチで針を上に戻していない場合、上糸を正しくセットできません。

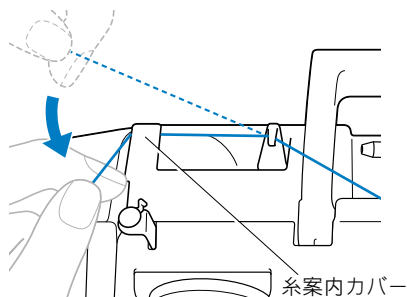


6 糸こまから糸を引き出し、上糸案内のツメ部分に糸をかけます。

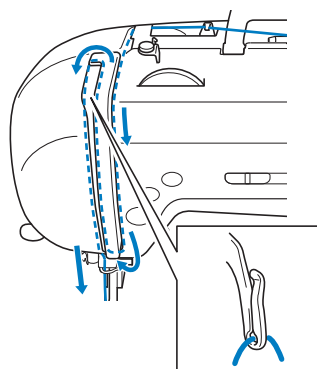


7 糸を糸案内カバーの奥から手前にかけてます。

引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。

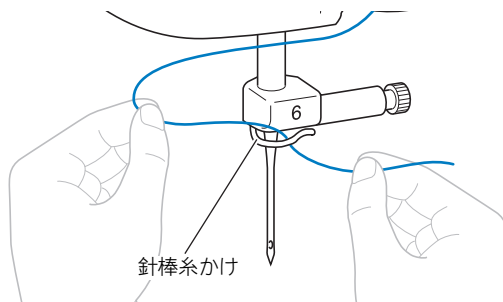


8 ミゾにそって、ミシン本体に表示されている番号順に糸を通してください。



9 針棒糸かけに糸を通します。

左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸かけがしやすくなります。



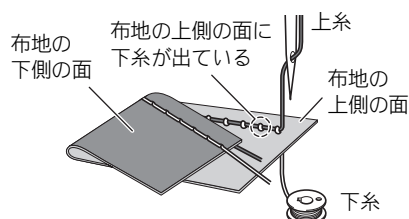
10 「上糸を通す」の⑭～⑮(→P.24)に従って、糸通し装置で針に糸を通します。

糸調子が合わない

■ こんなとき

- ・ 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。
- ・ 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- ・ 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。
- ・ 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- ・ 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<上記の症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

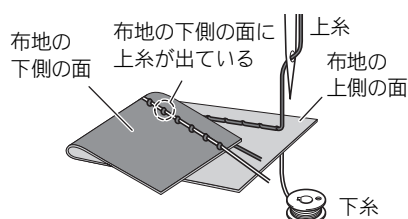
上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、「上糸がつる」(→ P.64) を参照してセットし直します。

<上記の症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、「布裏で糸がかかる」(→ P.65) を参照して糸をかけ直します。

□ 症状③



□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- ・ 「布地と糸の種類による針の使い分け」(→ P.26) の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子ダイヤルの数値が適正でない。

上糸調子ダイヤルを回して、適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

※ 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。



お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子ダイヤルを回しても糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。
- 布地の上側に下糸が見える場合
上糸調子ダイヤルを数字が小さくなる方向(左方向)に回します。(糸調子を弱くします。)
- 布地の下側に上糸が見える場合
上糸調子ダイヤルを数字が大きくなる方向(右方向)に回します。(糸調子を強くします。)

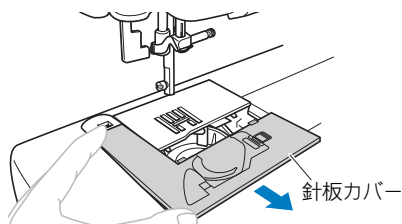


布がミシンに入り込んでとれなくなった

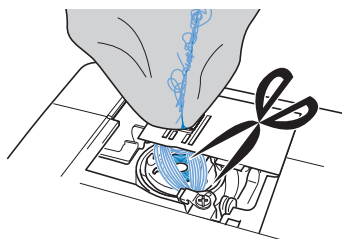
布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。
操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

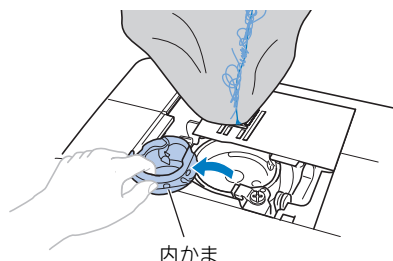
- ① 直ちにミシンを停止させます。
- ② 電源を切ります。
- ③ 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。
・「針を交換する」（→ P.27）を参照してください。
- ④ 押えレバーを上げて、押えと押えホルダーを取り外します。
・「押えを交換する」（→ P.29）、「押えホルダーを外す」（→ P.30）を参照してください。
- ⑤ 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。
ここで布を取り外することができる場合は、取り外してください。かまの掃除をするために引き続き、次の手順へお進みください。
- ⑥ 針板カバーの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせて針板カバーを外します。



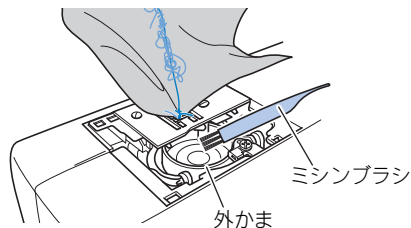
- ⑦ からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



- ⑧ 内かまを取り出します。
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



- ⑨ 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周囲の糸くずやほこりを取り除きます。



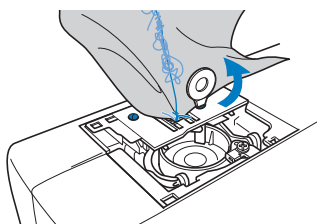
ここまでの手順で布を取り外せた場合

→ 手順 ⑮
に進む

ここまでの手順で布が取り外せない場合

→ 手順 ⑩
に進む

10 付属のネジ回しを使って、針板の二つのネジを取り外します。

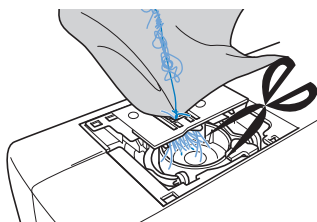


お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



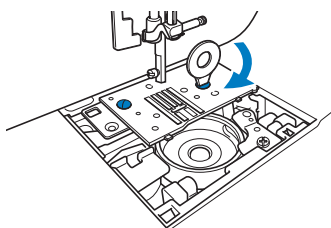
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

13 プーリーを回して、送り歯を上に戻します。

14 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



正しい送り
歯の位置



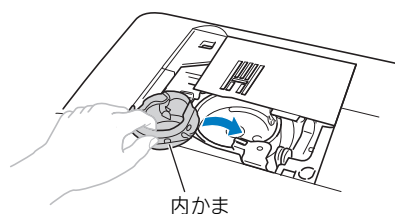
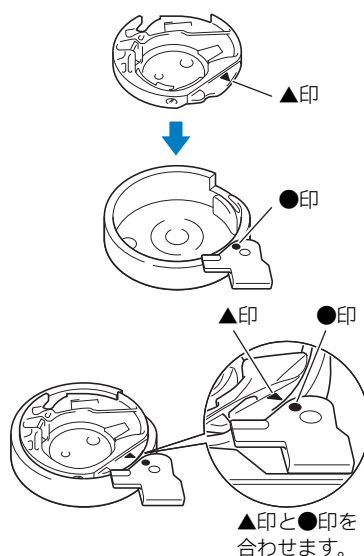
正しくない送り
歯の位置



お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

16 下図のように▲印と●印が合うように、内かまを取り付けます。



- ・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

注意



- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

17 「かまの掃除」の⑨ (→ P.63) に従って針板カバーを取り付けます。

18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- ・ 「正しい針の見分け方」 (→ P.27)、「針を交換する」 (→ P.27) を参照してください。

注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。



お願い

- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。



お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

いったん針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

2 中基線の模様⁴を選択します。

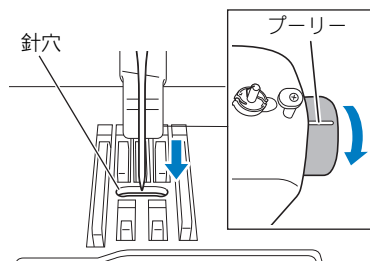


お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」の手順¹³ (→ P.69) からやり直してください。



4 ジグザグ模様⁷を選択します。

5 プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご相談ください。

6 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

- ・ 「下糸をセットする」 (→ P.19)、「押えを交換する」 (→ P.29) を参照してください。

7 上糸をかけなおします。

- ・ 上糸のかけ方については、「上糸を通す」 (→ P.21) を参照してください。



お願い

- 上糸が正しくセットされていないければ、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

8 普通地で試しぬいをします。



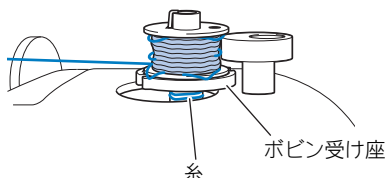
お願い

- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

ポビン受け座の下で糸がからまってしまったら

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ポビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。

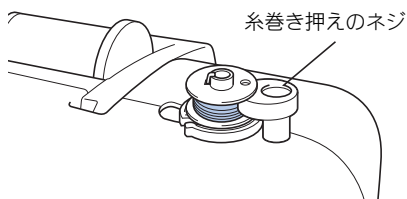
そうなった場合は、以下の手順に従ってポビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



⚠ 注意

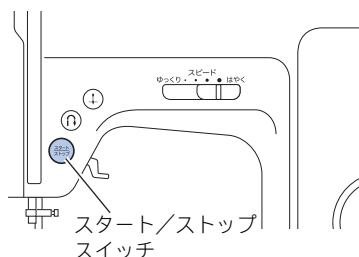


- ポビン受け座の下に糸が巻かれても、ポビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- 糸巻き押えのネジをゆるめたり、外したりしないでください。ミシンの故障の原因となります。ネジを外しても、からまった糸をほどくことはできません。



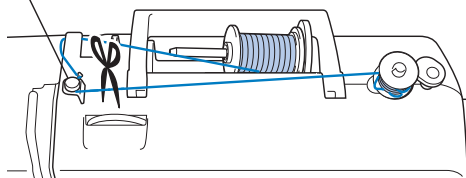
- 1 ポビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、 (スタート/ストップスイッチ)を押して、下糸巻きをストップします。

フットコントローラーが接続されている場合は、フットコントローラーから足を離します。

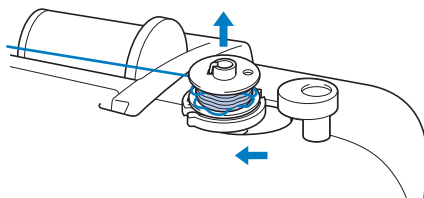


- 2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

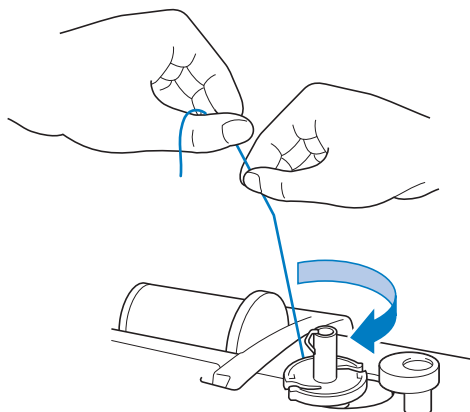
下糸巻き案内



- 3 下糸巻き軸を左へ戻し、ポビンを軸から外します。



- 4 図のように左手で糸端を持ち、右手でポビン近くの糸をゆっくりと右回りに回して、からまった糸をほどきます。



- 5 下糸巻きをやり直します。



お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。(→P.17)

こんなときには

■ めう前の準備

こんなとき	原因	対処	参照ページ
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	P.17
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに 5 ～ 6 回ボビンに巻き付けます。	P.17
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	P.17
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。	P.71
糸通しレバーが下まで降りない	針が正しい位置にない。	④ 針上下スイッチを押して針を上げます。	P.21
糸通しができない	針が正しい位置にない。	④ 針上下スイッチを押して針を上げます。	P.21
	糸通し装置のフックが針穴に入らない。	④ 針上下スイッチを押して針を上げます。	P.21
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.27
手もとライトが点灯しない	ライトが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.15

■ めっているとき

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	下糸巻き軸が右側に押されている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	P.18
	フットコントローラーが差し込まれた状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.15
	フットコントローラーが正しく使用されていない。	フットコントローラーを正しく使用します。	P.15
	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	P.15
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.15
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P.34
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P.34
布がミシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下糸を切ります。 次にかまの掃除をします。	P.68

こんなとき	原因	対処	参照ページ
針が折れる	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P.22
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.21
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針のとめネジがゆるんでいる。	ネジ回しを使ってとめネジをしっかりしめます。	P.28
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.61
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.35
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	—
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまを正しくセットします。	P.22
	針棒系かけから糸が外れている。	針棒系かけに糸を正しく掛けます。	P.23
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	—
	針に比べて糸が太すぎる。 針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.26
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.35
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.65
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16
	糸こま押えの大きさが合っていない。	糸こまの大きさに合った糸こま押えを使用します。	P.22
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.19
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	P.16
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	—
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、かまを掃除します。	P.65
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.19、21
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.22
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	薄地の場合に、ぬい目がつれたり、布がうまく送れない。	布地の下にハترون紙などを敷いてぬいます。	P.37
	薄地の場合に、ぬい目があらずぎる。	布地の下にハترون紙などを敷いてぬいます。	P.37
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.61
ぬい目かとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.21
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針板の下やかまにほこりなどがたまっている。	手前の針板カバーを外してかまをブラシで掃除します。	P.62
ぬっているときの音が 高いガタガタと音がする	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.21
	送り歯やかまにほこりがたまっている。	かまを掃除します。	P.62
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを▲▲に動かします。	P.58
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.61
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.65
	ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え<J>の固定ピンで押えを水平にしてぬいます。	P.37
布地が逆方向に送られる	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—

■ 仕上がり

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸がつる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.19、64
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.21
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.19
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	P.16
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P.30
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35、67
	本機純正のポピンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ポピンを使用してください。	P.16
布裏で糸がからまる	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.21、65
模様がきれいにぬえない	模様にあった押えを使用していない。	模様にあった押えを取り付けます。	P.61
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35、67
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.62、65

電子音について

キーを操作しているときや、まちがった操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ まちがった操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と3秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。

必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

仕様表

ミシン本体の仕様は以下の通りです。

項目	仕様
本体寸法	幅 418mm × 高さ 306mm × 奥行 190mm
製品質量	6.5kg
ぬい速度	毎分 70 ～ 710 針
使用ミシン針	家庭用ミシン針 (HA × 1)
定格電圧 / 消費電力	100V / 40W 50 / 60Hz
ライト	白色 LED ライト

索引

数字

3重ぬい.....56

あ

厚い布地をぬう.....36

アップリケ.....54

い

糸切り.....34

糸たて棒.....16, 21

糸調子.....35

糸調子ダイヤル.....35

う

薄い布地をぬう.....37

上糸.....21

お

送り歯.....57

押え.....29

押え固定ピン.....10, 37

押えホルダー.....29, 30

押えレバー.....21

お手入れ.....62

か

カーブをぬう.....36

返しぬい.....34

返しぬいスイッチ.....34

片押え.....49

かま.....62

き

キルト押え.....57

く

クレイジーキルト.....55

こ

ゴムテープつけ.....52

し

ジグザグ押え.....37, 40

下糸.....16, 19, 25

下糸巻き軸.....16, 72

地ぬい.....41

伸縮ぬい.....52

す

すそ上げ.....42

スタート/ストップスイッチ.....34

スピードコントロールレバー.....15, 34

そ

操作スイッチ.....13

掃除.....62

た

たち目かがり.....39, 59

たち目かがり押え.....40

ち

直線ぬい.....41

つ

筒もの.....38

て

手もとライト.....15

てんびん.....22

電源.....14

電源スイッチ.....15

電子音.....76

と

特に厚い布地をぬう.....38

止めぬい.....34

ドロップフィード.....57

ドロップレバー.....57, 58

ぬ

ぬう方向を変える.....36

の

伸びる布地をぬう.....38, 52

は

パッチワーク.....55

針板カバー.....63

針板ふた.....19

針上下スイッチ.....19

針停止位置.....31

ふ

ファスナーつけ.....48

付属品.....9

付属品収納スペース.....9

フットコントローラー.....15, 34

フリーアーム.....38

フリーモーションキルト.....57

ほ

補助テーブル.....9

ボタン穴かがり.....45

ボタン穴かがり押え.....46

ボタン穴かがりレバー.....46

ボタンホール.....45

ボビン.....16

ま

まつりぬい.....42

み

ミシン針.....26

ミシンブラシ.....63

め

面ファスナー.....37

も

模様設定.....61

模様選択ダイヤル	33
模様を選ぶ.....	33
リ	
リップー	47

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご相談ください。

■ お客様相談室 (ミシン119番)

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン119番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室 (ミシン119番) Tel: 050-3786-1134

050 (ゼロ ゴー ゼロ) で始まる電話番号です。

Fax: 052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室 (ミシン119番) は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク (銀色シール) の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室 (ミシン119番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://support.brother.co.jp/>

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

888-V02
Printed in Vietnam



XF5459-301③